

# 富山県景観づくり色彩ガイドライン

Guideline on the landscape & townscape colors for TOYAMA.

01	2	富山の色彩景観 写真で見るとやまの色
02	4	ガイドラインの活用方法 ガイドラインの位置づけ ガイドラインの構成 ガイドラインの対象と例外
03	6	景観色彩の基礎知識 マンセル表色系 自然的景観の色彩 人工的景観の色彩
04	9	ガイドラインにおける色彩の分類方法 避けた方がよい色とおすすめの色 ガイドラインによる色彩の分類 7つのトーンの色相範囲 7つのトーンの色相見本 参考-1 日本塗料工業会標準色見本帳とマンセル表色系の対応 参考-2 マンセル表色系による色彩分布図
05	15	景観色彩の配慮事項 色彩景観を整える 10 のポイント 景観色彩の秩序 地域性・地区性 町並みの連続性 建築物等の慣例色と騒色 建築物等の色彩調和 規模や形態との調和 景観と色彩の心理的效果 色彩の経年変化とメンテナンス 安全性とバリアフリー 屋外広告物と景観の調和
06	28	景観類型別色彩指針 景観類型の考え方 色彩指針の構成 山岳里山景観 海岸景観 田園景観 商業・業務景観 住宅地景観 産業施設景観 歴史的町並み景観
07	44	公共事業の色彩 基本的考え方 公共事業の色彩計画の流れ 水辺の土木構造物の色彩 道と広場の素材の色彩
08	48	色彩景観の拠点づくりに向けて 地域の特徴を生かすために ふるさと富山を想起させる色彩景観 あたらしい富山を予感させる色彩景観

## 01

## 富山の色彩景観



## 01-1

## 写真で見るとやまの色

## ●伝えたい美しいとやまの色

美しい景観は長い時間の蓄積や多くの人々の協力によって築かれてきたものです。このため、建築物や土木構造物などの色彩選択にあたっては、[すでにそこにある色彩]を尊重し、どのような色彩を付け加えればよりよい景観になるかを熟慮することが大切です。

私たちが暮らす[ふるさと富山]には、立山連峰、黒部峡谷に代表される山岳の緑や急傾斜の大地を下りおる清冽な水の青、四季折々に彩りを添える花々の鮮やかな色など、豊かな自然に恵まれた富山ならではの色彩がみられます。

また、世界的にその価値が認められている五箇山の合掌造り集落のほか、街道筋、門前町の歴史的町並みなどの先人たちが築き上げてきた素朴で力強い色彩も[ふるさと富山]を特徴づける大切な色彩です。

こうした景観をよりいっそう充実させながら保全、創造し、次の世代に伝えていくことが私たちの重要な役割といえます。



1



2



3



4



5



6



7



8



9



10



11



12

- ①—桜色：富山市・松川沿いの桜並木
- ②—紅緋：砺波市・砺波平野のチューリップ
- ③—薄紅：八尾町・おわら風の盆の踊り手
- ④—真紅：宇奈月町・黒部深谷鉄道に架かる新山彦橋
- ⑤—菜の花色：高岡市・春の訪れを告げる菜の花畑
- ⑥—黄金色：新湊市・実りの時期を迎えた稲穂
- ⑦—常盤色：大山町・殿様林の松並木
- ⑧—若緑：入善町・扇状地の湧水を覆う沢杉
- ⑨—草色：立山町・夏草に彩られたみどりか池
- ⑩—深緑：立山町・夏のアルペンルート
- ⑪—青磁色：大山町・常西用水を潤す雪解け水
- ⑫—白緑：魚津市・片貝川を流れる清冽な水
- ⑬—秘色：立山町・アルペンルートに積もる雪
- ⑭—虹色：立山町・黒四ダムに架かる虹
- ⑮—丁字茶：立山町・称名滝の岩肌の色
- ⑯—生成色：新湊市・帆に風をはらむ海王丸
- ⑰—薄縹：高岡市・雨晴海岸から望む立山連峰
- ⑱—利休鼠：朝日町・ヒスイ海岸のさざれ石
- ⑲—橙色：上平村・菅沼集落を灯す柔かいあかり
- ⑳—枯色：平村・相倉集落の茅葺き屋根
- ㉑—焦茶：井波町・瑞泉寺を飾る木彫
- ㉒—鼠色：高岡市・金屋町界隈の石畳



13



14



15



17



18



16



19



20



21



22

## 02

ガイドライン  
の活用方法

## 02-1

## ガイドラインの位置づけ

このガイドラインは、[富山県景観条例]に基づき定められた景観関連指針のうち、特に大規模行為の景観づくり基準及び公共事業の景観づくり指針の色彩に関する事項について、よりわかりやすく説明するものです。

国、県、市町村などにおいて景観づくりや公共事業に携わる行政担当者をはじめ、事業者、設計者、施工者など様々な立場で景観づくりに参加する県民の皆さんに、豊かな自然と歴史や文化に恵まれた富山らしい色彩景観づくりを進めていただくための手がかりとなるよう、建築物や土木構造物などの色彩を選定する際の考え方や具体的な推薦色等を紹介しています。

また、大規模行為や公共事業に限らず、一般の住宅などの色彩を考える際にも活用いただける内容となっています。

## 02-2

## ガイドラインの構成

このガイドラインは次の8つの項目によって構成されています。

## 01 富山の色彩景観

日本古来の色の呼び名に対応する、ふるさと富山の美しい色彩景観を紹介しています。

## 02 ガイドラインの活用方法

ガイドラインの位置づけや構成について紹介しています。

## 03 景観色彩の基礎知識

ガイドラインを理解するために必要な色彩の基礎知識を紹介しています。

## 04 ガイドラインにおける色彩の分類方法

ガイドラインで用いる色彩の分類方法を紹介しています。

## 05 景観色彩の配慮事項

色彩景観づくりにあたって配慮すべき基本的な事項を紹介しています。

## 06 景観類型別色彩指針

景観を7つの類型に分類し、それぞれにふさわしい色彩のあり方を紹介しています。

## 07 公共事業の色彩

地域の景観づくりに関して先導的な役割を担う公共事業の色彩のあり方を紹介しています。

## 08 色彩景観の拠点形成に向けて

地域固有の色彩を生かし、個性ある景観を守り育てていくために、県内でも特徴的な色彩景観を有する地域を紹介しています。



## 02-3

## ガイドラインの対象と例外

## ●ガイドラインの対象部位

## 外装基調色に対するガイドラインです

このガイドラインは、主に外壁(外装)の基調色について、使用することを避けた方がよい色彩やおすすめの色彩の範囲を規定したものです。

また、屋根や建具、広告物などの色彩も、建築物等の外観や地域の景観づくりの上で重要な役割を果たしていることから、これらの色彩についてもアドバイスを書き添えています。

建築物等の基調色の選択時には、ガイドラインの「避けた方がよい色」や「おすすめの色」の範囲に合致しているかどうかだけでなく、景観色彩の配慮事項など、景観と色彩に関わるアドバイス等を参考にしてください。

## ●ガイドラインの例外

独自の景観づくりが進められている  
地域に立地する建築物等

地区計画や建築協定、その他任意の協定などによって独自の景観・まちづくりが進められている地域で、色彩についても協定等に独自の内容が定められている場合は、ガイドラインに優先して地域独自の色彩基準等による景観づくりを進めることになります。

地域のランドマークで近隣の合意が  
得られる建築物等

地域の景観づくりのうえで重要な位置づけにあり、周辺の自然や町並みとは異なる色彩を使用することが必要な建築物や土木構造物については、ガイドラインの範囲外の色彩を使用する場合があります。

ただし、そのような場合は、周辺の景観に十分に配慮するとともに、色彩設計の主旨や、建築物等の各部に実際に使用する色彩を明らかにし、周辺の住民や関係する行政機関などの合意を得ることが必要です。

## 自然素材を基調とした建築物等

木材や土壁に代表される自然素材は、施工直後には使用することを避けた方がよい色彩の範囲に含まれていても、経年変化によって、穏やかなトーンに変色することが多いことから、ガイドラインの例外とします。

また、材料の特性や経済的な事由からガイドラインに沿った着色が困難な場合も考えられるため、ガイドラインの主旨に反する場合を除いて、着色を施していない金属板やスレート、ガラスなどの素材色についても、ガイドラインの例外とします。



## 03

景観色彩の  
基礎知識

## 03-1

## マンセル表色系

一般的に色彩は、赤や青、黄などの色名で表現されます。しかし、色名による表現には捉え方に個人差があり、ひとつの色を正確かつ客観的に表すことはできません。

このため、ガイドラインでは、JIS（日本工業規格）などにも採用されている国際的な尺度である[マンセル表色系]を採用しています。

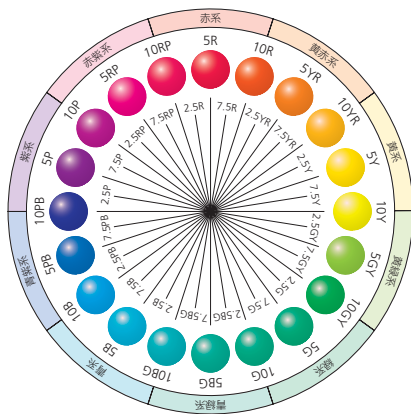
[マンセル表色系]ではひとつの色彩を[色相(いろあい)]、[明度(あかるさ)]、[彩度(あざやかさ)]という3つの属性の組み合わせによって表現します。

●**色相は**、いろあいを表します。10種の基本色(赤、黄赤、黄、黄緑、緑、青緑、青、青紫、紫、赤紫)の頭文字をとったアルファベット(R、YR、Y、GY、G、BG、B、PB、P、RP)とその度合いを示す0から10までの数字を組み合わせ、10Rや5Yなどのように表記します。

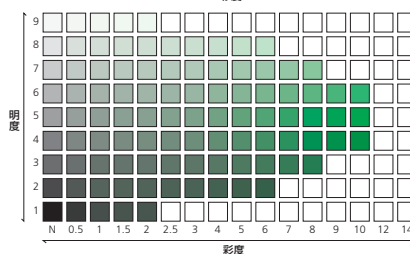
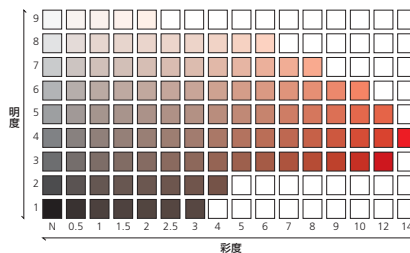
●**明度は**、あかるさを0から10までの数値で表します。暗い色ほど数値が小さく、明るい色ほど数値が大きくなり10に近くなります。

●**彩度は**、あざやかさを0から16程度までの数値で表します。色味のない鈍い色ほど数値が小さく、白、黒、グレーなどの無彩色の彩度は0になります。逆に鮮やかな色彩ほど数値が大きく赤の原色の彩度は16程度です。

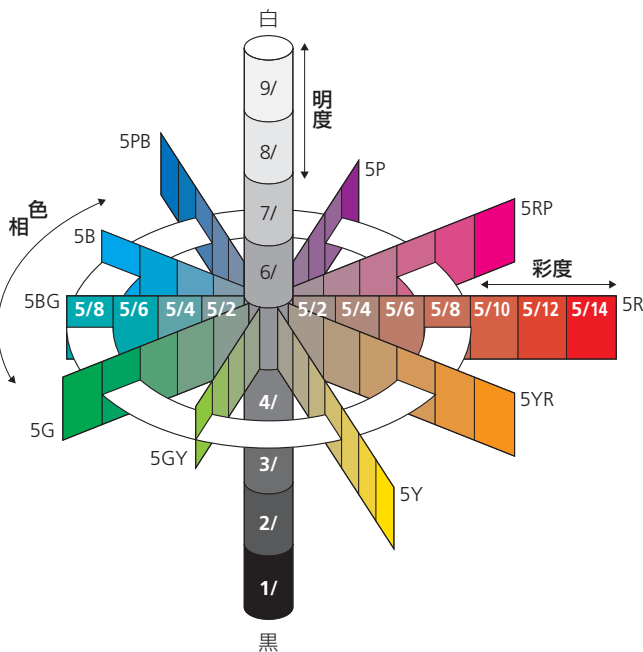
●**マンセル値は**、これら3つの属性を組み合わせて表記する記号です。例えば、赤いチューリップの色彩は5R4/14と表記し、「5アール、4の14」と読みます。



マンセル色相環



明度(あかるさ)と彩度(あざやかさ)



マンセル表色系のしくみ



## 赤いチューリップの花の色

ごアール よん の じゅうよん  
**5R 4 / 14**  
 色相 明度 彩度

## 03-2

## 自然的景観の色彩

## ●美しい自然の色

## 客観的なマンセル値で捉えると...

四季折々に美しい彩りを見せる自然の色彩は、多くの人を魅了してやみません。

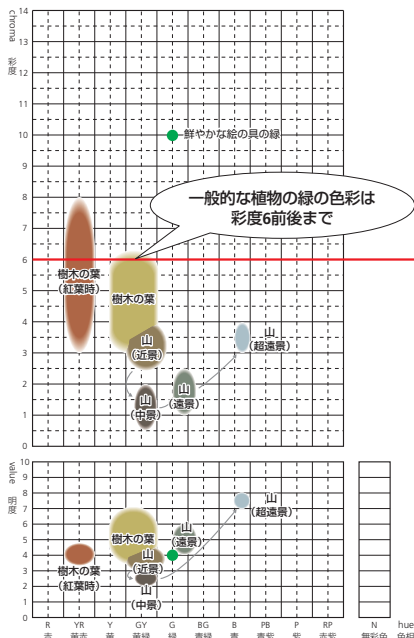
豊かな自然と四季の変化に恵まれた富山では、若々しい緑が目まぶしい春、青々とした緑が強い日差しに映える夏、紅葉によって木々の葉がダイナミックに変化する秋、真っ白な雪が一面の銀世界をつくり出す冬など、自然の色彩の変化を知ることによって、季節の移り変わりを感じ取ることができます。

私たちはこうした豊かな自然の色を尊び、芸術や生活、文化の中に生かしてきました。

しかし、私たちは実際の自然の色彩を意外と知らないものです。水のイメージを反映してつくられた青い橋や、田園風景の中にある緑色のネットフェンスが違和感を感じさせるのはなぜでしょう。

ここでは、自然の色彩を情緒的にとらえるのではなく、マンセル表色系を用いて客観的に示し、その特徴を紹介します。

右上のグラフ(色彩分布図)の見方は14ページ下段を参照してください。



## ●鮮やかに感じられる緑...

## それでも彩度は6前後

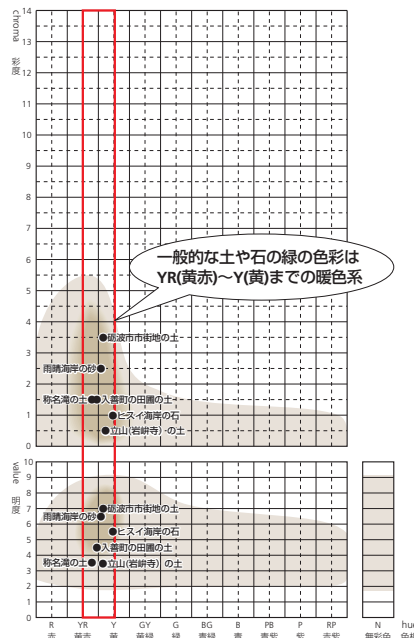
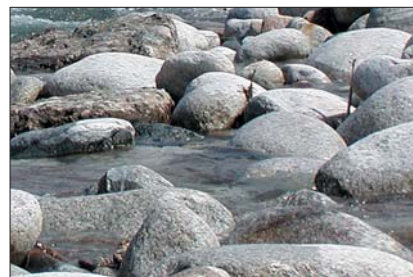
上の図は、樹木の葉や山の色などを計測し、マンセル値で表したものです。

植物の緑は樹種等によって差があり、一般的には常緑樹よりも落葉樹の方が明るく鮮やか色彩を持っています。

また、季節によっても色彩に差があり、春先の芽吹きや秋の紅葉時などは彩度が高くなり華やかさを増します。

しかし、初夏から秋口にかけての安定した植物の緑の色は、彩度が6前後で、私たちが用いる絵の具や塗料などの緑色と比べると、かなり穏やかな色彩になっていることがわかります。

建築物など大きな人工物の色彩は、自然の緑を生き生きと見せるために、その色彩が持つ鮮やかさ(彩度6前後)よりも彩度を抑えることが基本といえます。



## ●大地のぬくもりを感じさせる土や石...

## それもそのはず、みんな暖色系

上の図は、県内各所をはじめ様々な地域の土や石、砂などの色彩を計測し、マンセル値で表したものです。

岩峯寺や称名滝など立山周辺の土はやや暗めで、雨晴海岸の砂や砺波市街地の土は明るめの傾向が見られます。

また、ほとんど無彩色に近い岩峯寺周辺の土に対して、砺波市街地で採取した土の中には、彩度3程度の色味の強いものもみられました。

このように、明度や彩度には多少の差がみられますが、ほとんどの土や石はYR(黄赤)系やY(黄)系など、暖かみを感じさせる暖色系の色相に属しています。

[大地にはぬくもりがある]といわれますが、それは科学的な色彩値からも実証されていることなのです。

## 03-3 人工的景観の色彩

### ●無秩序にみえる人工物の色

意外に狭い範囲の中から選択されています ...

町並みの景観を漠然と眺めていると、身の回りの衣服や雑貨品のように、多数のカラーバリエーションがあるように感じられます。

しかし、実際の町並みを調査し、その結果をマンセル表色系の色相、明度、彩度に分けてそれぞれ分析すると、建築物等の色彩には意外な共通性があることがわかります。

写真は、富山市の中心市街地を市役所の展望室から撮影したものです。

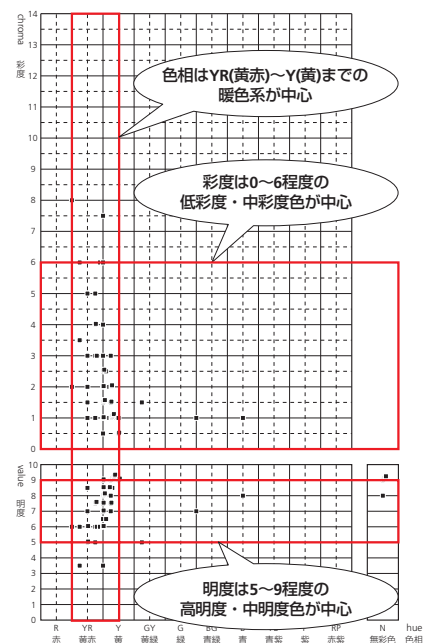
建築物や道路、緑、アンテナなど様々な色彩要素がみられますが、この中から建築物の基調色に焦点をあてると、建築物の色彩が意外に狭い範囲から選択されており、身の回りの衣服や雑貨品の色彩とは単純に比較できないことがわかります。



多様な色彩がみられる富山市の中心地



建築物等の色彩を科学的に計測すると ...



### ●色相は土や石と同じ暖色系

建築物の色彩の多くは、YR(黄赤)系やY(黄)系などの暖色系色相に属しており、緑や青、紫などの色相に属する色彩はほとんど使われていません。

これは、前ページの土や石の色彩と共通する傾向です。

着色技術が発達した今日でも、建材の色彩は、昔から使われてきた自然素材の色彩が基本になっていることがわかります。

### ●明度は高明度・中明度が主体

建築物の中にはアイボリーなど明るい色彩を基調としたものや、煉瓦色などやや暗めの色彩を基調としたものなどがみられます。

しかし、服飾品のように真っ白や真っ黒は意外と少ないものです。

やや暗めに感じられる建築物でも、その明度は4~5前後で、靴やバッグのように真っ黒な(明度2前後)建築物はほとんどみられません。

### ●彩度は低彩度・中彩度が主体

町並みの中にはごくまれに赤や黄色などの原色を基調とした建築物もみられますが、ほとんどの建築物は低彩度、中彩度を基調としています。町並みのなかで色味を感じる煉瓦色でもその彩度は6程度です。

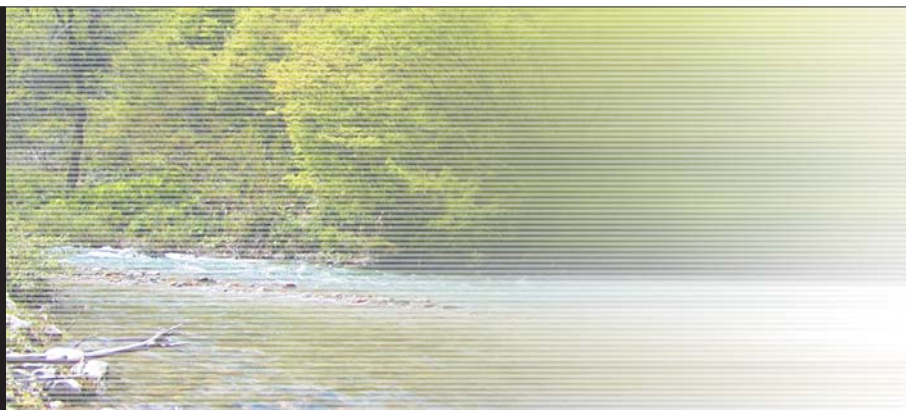
土や石、木材などを加工した自然素材に派手な色が少ないように、建築物の基調色にも、植物の緑の鮮やかさ(彩度6前後)を超えるような派手な色はあまりみられません。





# 04

## ガイドラインにおける 色彩の分類方法



### 04-1

#### 避けた方がよい色と おすすめの色

##### ●基本ルールとしてのガイドライン

建築物の色彩には一定の共通性が見られますが、ガイドラインの対象には、さまざまな規模や形態、材料の建築物や土木構造物等が含まれます。

さらに、その機能や立地環境などを勘案すると、色彩を取り巻く条件は多岐にわたります。

このように多様な要素を持つ建築物等の色彩をごく狭い範囲に閉じこめてしまうことは、選択肢を狭めるばかりでなく、色彩が持つ豊かな可能性を狭めることにもなることから、ガイドラインでは、建築物等が置かれた条件に応じて柔軟な色彩選択ができるよう、色彩の範囲を比較的広く設定しています。

このため、ガイドラインに合致してさえいればどのような色でもよいというわけではない点に注意してください。

##### ●避けた方がよい色

このガイドラインは、使用すべき色彩の範囲を示すというよりはむしろ、町並みの基調となっている色彩との対比が強く、周辺環境に与える影響が大きいために、避けた方がよい色を示すという視点に立って色彩の範囲を設定しています。

しかし、選択の柔軟性を高めるよう範囲を設定していることから、許容範囲内であっても、施設の機能や規模に照らして、必ずしもふさわしくない色彩が含まれている可能性があります。

このため、色彩設計に際しては、避けた方がよい色彩の範囲を遵守するばかりでなく、個々の建築物等が置かれた環境条件に鑑み、景観色彩の配慮事項などをよく確認するなどして、慎重な姿勢で色彩選択にあたることが重要です。

##### ●おすすめの色

このガイドラインでは、避けた方がよい色彩の範囲とあわせて、外壁などの色彩としておすすめの色を提案しています。

おすすめの色は、県内各所の実地調査をもとに選定されたもので、地域の基調となっている自然景観や町並み景観と違和感が少なく、現況の秩序を保つことが可能な色彩を例示したものです。これらの中には、地域の景観になじみ、地域の人々にも広く認められている実在の建築物等の色彩をそのまま示したのも含まれています。

色彩選択に迷った際には、景観類型ごとに例示したおすすめの色を参考にさせていただくことで、建築物等の色彩を地域の景観に無理なくとけ込ませることが可能です。



## 04-2 ガイドラインにおける 色彩の分類

このガイドラインでは、建築物や土木構造物などの色彩の特徴をふまえ、独自の方法で色彩を分類しています。

### ●景観色彩の客観的尺度

これまで、色彩は感覚的に捉えられることが多く、[落ち着いた色][調和する色]などのような曖昧な表現だけでは、具体的で、きめ細やかな情報の伝達が難しい面がありました。

このため、共通の客観的尺度として、景観づくりに用いられる色彩を標準化しました。

このガイドラインによる色彩の分類方法は、富山県独自のもので、国際的に広く用いられているマンセル表色系を基礎にしていることから、全国で流通している建材や塗料などにあてはめて考えることが可能です。

### ●7つのトーンによる分類

ガイドラインは、客観性のあるマンセル表色系を基礎としていますが、同時に感覚的にも理解しやすいものである必要があると考え、明るさ、鮮やかさに共通性があり、印象がよく似た色彩をトーン（色調）としてグループ化し、すべての色彩を7つのトーンに分類しています。

#### トーンとは

色彩の三属性のうち、明度と彩度を組み合わせたものをトーン（色調）と呼んでいます。

一般に明度と彩度の組み合わせが似ている色彩は、色相が異なっても強弱や軽重、濃淡などの印象やイメージがほぼ共通しています。



暖色系の中・低彩度色を基調とする建築物等がならぶ戸建て住宅地——婦中町

### ●中・低彩度トーンの充実

身の回りの衣服や雑貨品などと異なり、建築物等の多くは、比較的穏やかな中彩度、低彩度の色彩の外観を持っています。

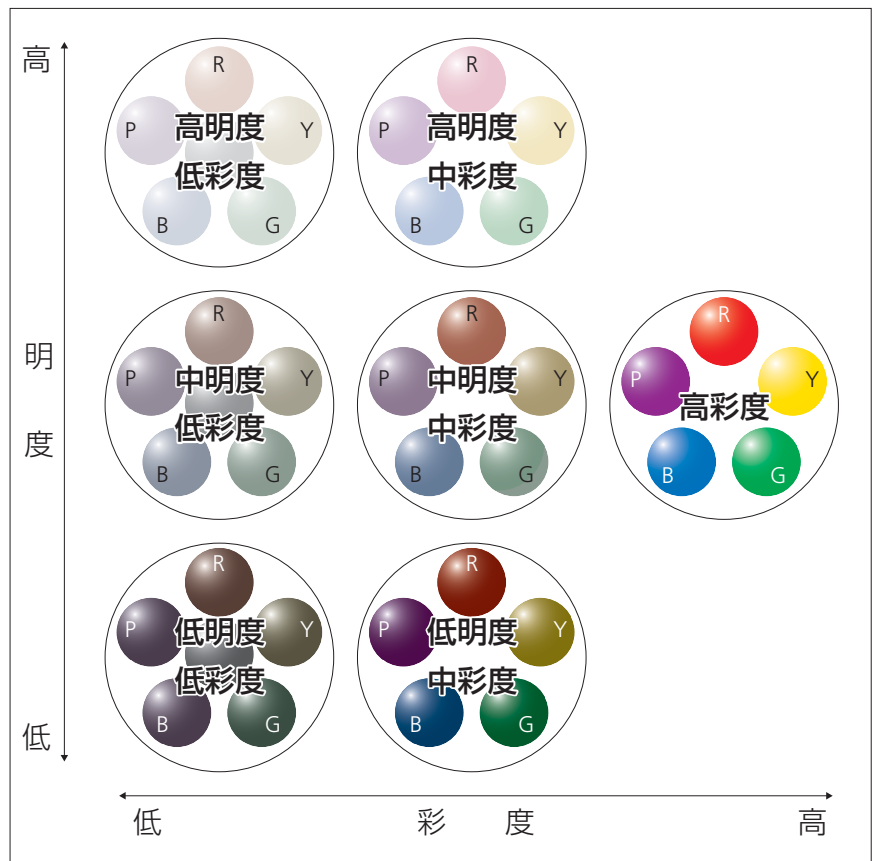
このため、ガイドラインでは中・低彩度のトーンを充実させ、建築物等の色彩としてはあまり用いられない高彩度のトーンはひとまとめにしています。

これが一般の色彩分類方法と異なる点で、こうした工夫によって、色彩景観づくりへの実効性を高めています。

### ●暖色系色相の充実

ガイドラインでは、建材の色彩として古くから用いられ、標準品の色彩の選択肢も広い、R（赤）系、YR（黄赤）系、Y（黄）系の色相では、より自由度の高い色彩選択ができるように考慮しています。

また、建築物等の色彩としてはあまり見慣れない、G（緑）系やB（青系）、P（紫）系の色相では、より慎重な色彩選択を促すように各トーンの範囲を定め、実用性に配慮しています。



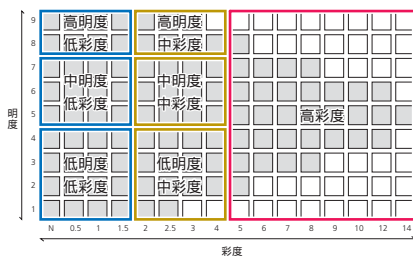
色彩ガイドラインによる7つのトーン分類

# 04-3

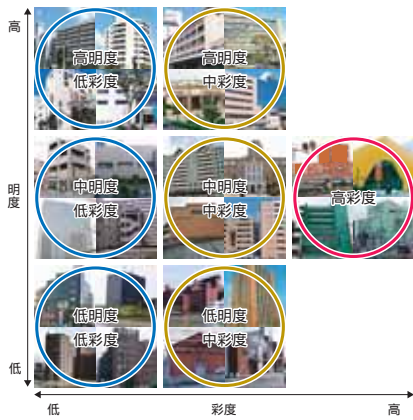
## 7つのトーンの色相範囲

このガイドラインで用いる、7つのトーンは、それぞれ下の表のような範囲で区切られています。

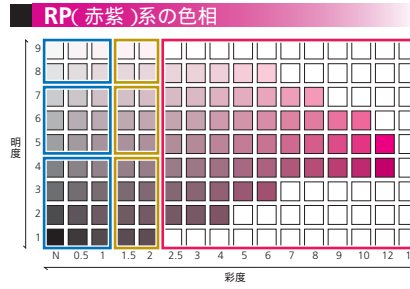
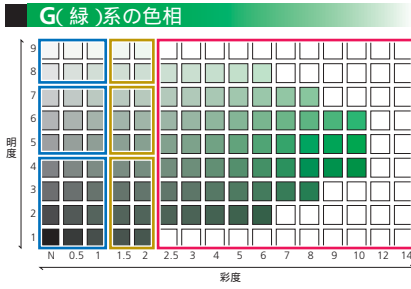
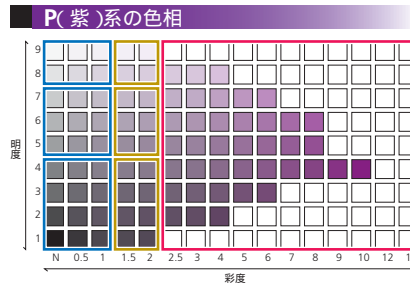
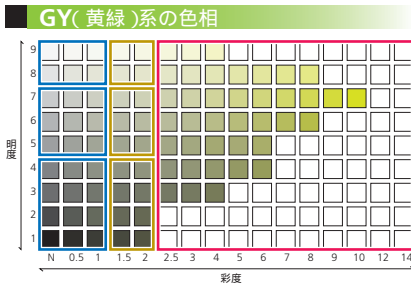
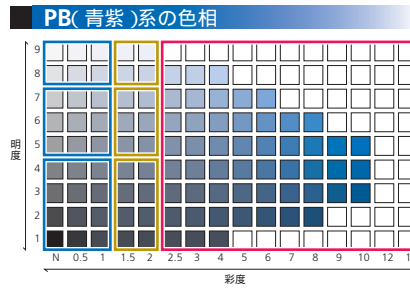
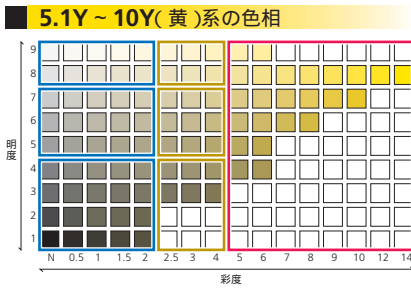
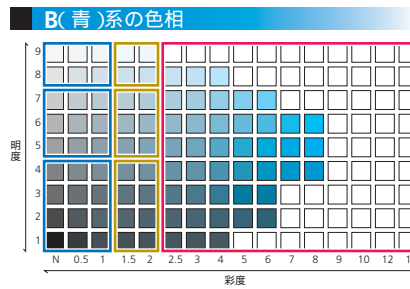
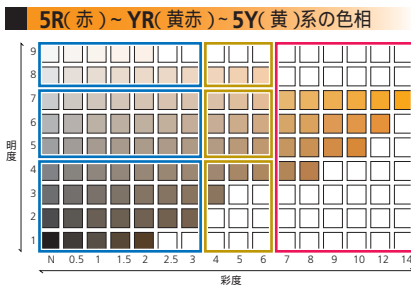
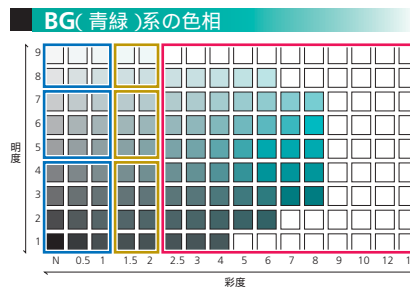
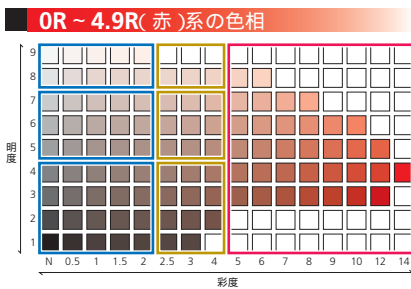
検討中の色彩のマンセル値が分れば、その色彩が[避けた方がよい色]や[おすすめの色]に含まれているかどうかを判断することができます。



カラーチャートの凡例



各トーンの色相の具体的なイメージ



トーン	色相	OR ~ 4.9R (赤)		5.0R ~ 10R (赤)		YR (黄赤)		0Y ~ 5.0Y (黄)		5.1Y ~ 10Y (黄)		GY(黄緑)		G(緑)		BG(青緑)		B(青)		PB(青紫)		P(紫)		RP(赤紫)			
		明度	彩度	明度	彩度	明度	彩度	明度	彩度	明度	彩度	明度	彩度	明度	彩度	明度	彩度	明度	彩度	明度	彩度	明度	彩度	明度	彩度		
低彩度	高明度	0 ~ 2.0		0 ~ 3.0		0 ~ 2.0								8.0 ~ 10				0 ~ 1.0									
	中明度	0 ~ 2.0		0 ~ 3.0		0 ~ 2.0								5.0 ~ 7.9													
	低明度	0 ~ 2.0		0 ~ 3.0		0 ~ 2.0								0 ~ 4.9				0 ~ 1.0									
	低明度	0 ~ 2.0		0 ~ 3.0		0 ~ 2.0								0 ~ 4.9				0 ~ 1.0									
中彩度	高明度	2.1 ~ 4.0		3.1 ~ 6.0		2.1 ~ 4.0								8.0 ~ 10				1.1 ~ 2.0									
	中明度	2.1 ~ 4.0		3.1 ~ 6.0		2.1 ~ 4.0								5.0 ~ 7.9				1.1 ~ 2.0									
	低明度	2.1 ~ 4.0		3.1 ~ 6.0		2.1 ~ 4.0								0 ~ 4.9				1.1 ~ 2.0									
高彩度	明度	4.1 ~		6.1 ~		4.1 ~								0 ~ 10				2.1 ~									

## 04-4

## 7つのトーンの代表色見本

## ● 7つのトーンの代表色

ここでは、7つのトーンを代表する色彩をそれぞれ選定し、例示しています。

## ● 日本塗料工業会標準色見本帳の色彩記号

近年、建材等のサンプルやカタログにマンセル記号による色彩表示がなされているものも増えてきましたが、マンセル値を判断するために必要な色票集は高価で入手が困難なものが多いのが実情です。

そうした中で、マンセル表色系を基礎とした記号体系を持ち、建築や塗装など景観に関連する業界に広く普及している色見本帳として、日本塗料工業会標準色見本帳が挙げられます。

この見本帳は、塗料の色彩を標準化することを目的につくられていることから、建築物や土木構造物等の色指定にも多用されており、(社)日本塗料工業会や塗料会社、塗装会社などで入手することができます。

このページをはじめ、ガイドラインの色見本にはマンセル記号と同時に、日本塗料工業会標準色見本帳の色彩記号を記載しています。建材や塗料等の色彩を日本塗料工業会標準色見本帳の色彩と比較類推することによって、大体のマンセル値が解り、使いたい色彩がガイドラインに合致しているかどうか判断できます。

日本塗料工業会標準色見本帳の色彩記号とマンセル値の対応は14ページを参照してください。

なお、この冊子の色彩はできるだけ正確に表現するよう工夫しましたが、印刷による色再現のため、実際のマンセル値と大きく異なる場合があります。正確な色彩の判断には使えません。あらかじめご了承ください。

色相 トーン	R(赤)系	YR(黄赤)系	Y(黄)系		
高 明 度 低 彩 度	5.0R9.0/0.5 [05-90A]	5.0YR9.0/0.5 [15-90A]	10YR9.0/0.5 [19-90A]	2.5Y9.0/1.0 [22-90B]	5.0Y9.0/0.5 [25-90A]
	5.0R9.0/1.0 [05-90B]	5.0YR8.5/0.5 [15-85A]	10YR9.0/1.5 [19-90C]	2.5Y8.5/1.0 [22-85B]	5.0Y9.0/1.0 [25-90B]
	5.0R8.5/1.0 [05-85B]	5.0YR8.5/1.0 [15-85B]	10YR8.5/1.5 [19-85C]	2.5Y8.5/2.0 [22-85D]	5.0Y8.5/1.0 [25-85B]
	5.0R8.0/0.5 [05-80A]	5.0YR8.0/0.5 [15-80A]	10YR8.0/1.0 [19-80B]	2.5Y8.0/1.0 [22-80B]	5.0Y8.0/1.0 [25-80B]
	5.0R8.0/1.0 [05-80B]	5.0YR8.0/1.0 [15-80B]	10YR8.0/1.5 [19-80C]	2.5Y8.0/1.5 [22-80C]	5.0Y8.5/1.5 [25-85C]
	10R8.0/2.0 [09-80D]	7.5YR8.0/2.0 [17-80D]	10YR8.0/3.0 [19-80F]	2.5Y8.0/2.0 [22-80D]	7.5Y9.0/1.0 [27-90B]
中 明 度 低 彩 度	5.0R7.5/1.0 [05-75B]	2.5YR7.0/2.0 [12-70D]	10YR7.5/1.0 [19-75B]	2.5Y7.5/1.0 [22-75B]	2.5Y5.0/2.0 [22-50D]
	5.0R7.0/0.5 [05-70A]	5.0YR7.0/2.0 [15-70D]	10YR7.0/1.0 [19-70B]	2.5Y7.5/2.0 [22-75D]	5.0Y7.5/1.0 [25-75B]
	5.0R7.0/2.0 [05-70D]	5.0YR6.0/2.0 [15-60D]	10YR7.0/2.0 [19-70D]	2.5Y7.0/2.0 [22-70D]	5.0Y7.5/1.5 [25-75C]
	5.0R6.0/1.0 [05-60B]	5.0YR6.0/3.0 [15-60F]	10YR7.0/3.0 [19-70F]	2.5Y6.0/1.5 [22-60C]	5.0Y7.0/0.5 [25-70A]
	10R7.0/2.0 [09-70D]	7.5YR7.0/2.0 [17-70D]	10YR6.0/1.0 [19-60B]	2.5Y6.0/2.0 [22-60D]	5.0Y7.0/1.5 [25-70C]
	10R6.0/1.0 [09-60B]	7.5YR5.0/3.0 [17-50F]	10YR6.0/3.0 [19-60F]	2.5Y5.0/1.0 [22-50B]	5.0Y6.0/1.0 [25-60B]
低 明 度 低 彩 度	5.0R4.0/1.0 [05-40B]	5.0YR4.0/1.0 [15-40B]	5.0YR2.0/1.0 [15-20B]	2.5Y4.0/2.0 [22-40D]	7.5Y3.0/1.0 [27-30B]
	5.0R3.0/1.0 [05-30B]	5.0YR4.0/2.0 [15-40D]	10YR4.0/2.0 [19-40D]	2.5Y3.0/2.0 [22-30D]	10Y4.0/2.0 [29-40D]
	5.0R3.0/2.0 [05-30D]	5.0YR3.0/1.0 [15-30B]		5.0Y4.0/1.0 [22-40B]	
	10R3.0/2.0 [09-30D]	5.0YR3.0/3.0 [15-30F]		5.0Y4.0/2.0 [22-40D]	
高 明 度 中 彩 度	7.5R8.0/4.0 [07-80H]	2.5YR8.0/4.0 [12-80H]		2.5Y8.5/4.0 [22-85H]	7.5Y8.5/4.0 [27-85H]
		5.0YR8.0/4.0 [15-80H]		2.5Y8.0/4.0 [22-80H]	10Y9.0/4.0 [29-90H]
		10YR8.0/6.0 [19-80L]			
中 明 度 中 彩 度	5.0R5.0/3.0 [05-50F]	2.5YR5.0/6.0 [12-50L]	7.5YR6.0/4.0 [17-60H]	2.5Y7.0/4.0 [22-70H]	
	7.5R7.0/3.0 [07-70F]	5.0YR7.0/4.0 [15-70H]	7.5YR5.0/6.0 [17-50L]	2.5Y5.0/3.0 [22-50F]	
	7.5R6.0/4.0 [07-60H]	7.5YR7.0/4.0 [17-70H]	10YR7.5/6.0 [19-75L]	2.5Y5.0/4.0 [22-50H]	
	10R5.0/3.0 [09-50F]	7.5YR7.0/6.0 [17-70L]	10YR6.0/4.0 [19-60H]	10Y7.5/4.0 [29-75H]	
低 明 度 中 彩 度	5.0R4.0/3.0 [05-40F]	5.0YR4.0/4.0 [15-40H]		2.5Y4.0/2.0 [22-40D]	10Y4.0/2.0 [29-40D]
	10R3.0/3.0 [09-30F]			5.0Y4.0/2.0 [25-40D]	
高 彩 度	5.0R4.0/14.0 [05-40X]	2.5YR6.0/14.0 [12-60X]	7.5YR7.0/14.0 [17-70X]	2.5Y8.0/14.0 [22-80X]	7.5Y8.0/10.0 [27-80T]
	10R7.0/10.0 [09-70T]	5.0YR7.0/12.0 [15-70V]	10YR7.5/14.0 [19-75X]	5.0Y8.0/3.0 [25-80W]	10Y7.0/8.0 [29-70P]



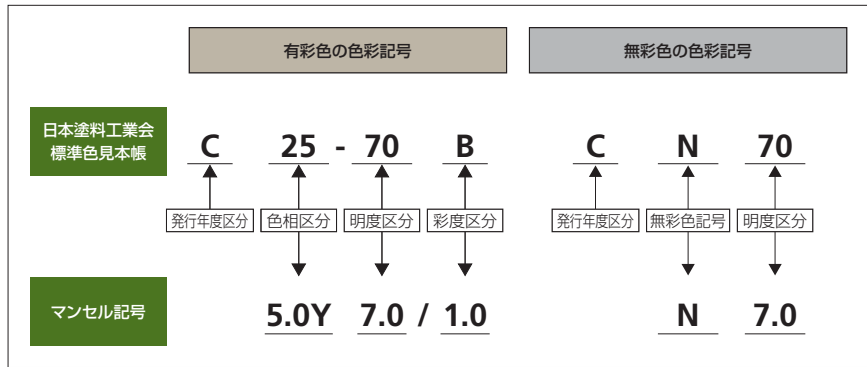
GY(黄緑)系	G(緑)系	BG(青緑)系	B(青)系	PB(青紫)系	P(紫)系	RP(赤紫)系	N(無彩色)系	色相 トーン	
2.5GY9.0/1.0 [32-90B]	5.0G9.0/0.5 [45-90A]	5.0BG9.2/1.0 [55-92B]	5.0B9.0/0.5 [65-90A]	5.0PB9.0/0.5 [75-90A]	5.0P9.0/0.5 [85-90A]	5.0RP9.0/0.5 [95-90A]	N9.5 [N-95]	高彩度 低彩度	低彩度
5.0GY9.0/0.5 [35-90A]	5.0G9.0/1.0 [45-90B]	5.0BG9.0/0.5 [55-90A]	5.0B9.0/1.0 [65-90B]	5.0PB9.0/1.0 [75-90B]	5.0P9.0/1.0 [85-90B]	5.0RP9.0/1.0 [95-90B]	N9.3 [N-93]		
5.0GY9.0/1.0 [35-90B]	5.0G8.5/1.0 [45-85B]	5.0BG9.0/1.0 [55-90B]	5.0B8.0/0.5 [65-80A]	5.0PB8.0/0.5 [75-80A]	5.0P8.0/0.5 [85-80A]	5.0RP8.0/0.5 [95-80A]	N9.0 [N-90]		
5.0GY8.5/0.5 [35-85A]	5.0G8.0/0.5 [45-80A]	5.0BG8.5/1.0 [55-85B]	5.0B8.0/1.0 [65-80B]	5.0PB8.0/1.0 [75-80B]	5.0P8.0/1.0 [85-80B]	5.0RP8.0/1.0 [95-80B]	N8.5 [N-85]		
5.0GY8.5/1.0 [35-85B]	5.0G8.0/1.0 [45-80B]	5.0BG8.0/0.5 [55-80A]					N8.0 [N-80]		
5.0GY8.0/1.0 [35-80B]	10G8.0/1.0 [49-80B]	5.0BG8.0/1.0 [55-80B]							
5.0GY7.0/0.5 [35-70A]	5.0G7.0/1.0 [45-70B]	5.0BG7.0/1.0 [55-70B]	5.0B7.0/1.0 [65-70B]	5.0PB7.0/1.0 [75-70B]	5.0P7.0/1.0 [85-70B]	5.0RP7.0/1.0 [95-70B]	N7.5 [N-75]	中彩度 低彩度	低彩度
5.0GY6.0/1.0 [35-60B]	5.0G6.0/1.0 [45-60B]	5.0BG6.0/1.0 [55-60B]	5.0B6.0/1.0 [65-60B]	5.0PB6.0/1.0 [75-60B]	5.0P6.0/1.0 [85-60B]	5.0RP6.0/1.0 [95-60B]	N7.0 [N-70]		
							N6.5 [N-65]		
							N6.0 [N-60]		
							N5.5 [N-55]		
							N5.0 [N-50]		
5.0GY4.0/1.0 [35-40B]	5.0G4.0/1.0 [45-40B]	5.0BG4.0/1.0 [55-40B]		5.0PB4.0/1.0 [75-40B]		5.0RP4.0/1.0 [95-40B]	N4.0 [N40]	低彩度 低彩度	低彩度
5.0GY3.0/1.0 [35-30B]							N3.0 [N30]		
							N2.0 [N20]		
							N1.0 [N10]		
2.5GY9.0/2.0 [32-90D]	5.0G8.0/2.0 [45-80D]	5.0BG8.0/2.0 [55-80D]	5.0B8.0/2.0 [65-80D]		5.0P8.0/2.0 [85-80D]			高彩度 中彩度	中彩度
5.0GY8.0/2.0 [35-80D]									
10GY8.0/2.0 [39-80D]									
7.5GY6.0/2.0 [37-60D]	5.0G7.0/2.0 [45-70D]	7.5BG7.0/2.0 [57-70D]	5.0B7.0/2.0 [65-70D]	2.5PB7.0/2.0 [72-70D]	5.0P7.0/2.0 [85-70D]	5.0RP7.0/2.0 [95-70D]		中彩度 中彩度	中彩度
7.5GY5.0/2.0 [37-50]	5.0G6.0/2.0 [45-60D]	7.5BG6.0/1.5 [57-60C]	5.0B5.0/2.0 [65-50D]	2.5PB6.0/2.0 [72-60D]	5.0P6.0/2.0 [85-60D]				
10GY6.0/2.0 [39-60D]		5.0BG5.0/2.0 [55-50D]		5.0PB7.0/2.0 [75-70D]					
10GY3.0/2.0 [39-30D]		5.0BG5.0/2.0 [55-50D]	10B2.0/2.0 [69-20D]	5.0PB4.0/2.0 [75-40D]	5.0P4.0/2.0 [85-40D]			低彩度 中彩度	中彩度
2.5GY7.0/10.0 [32-70]	5.0G7.0/8.0 [45-70P]	5.0BG7.0/4.0 [55-70H]	5.0B8.0/4.0 [65-80H]	2.5PB7.0/6.0 [72-70L]	2.5P4.0/10.0 [85-40T]	2.5RP4.0/12.0 [90-40V]		高彩度 高彩度	高彩度
7.5GY5.0/6.0 [37-50L]	10G4.0/10.0 [49-40T]	10BG4.0/8.0 [59-40P]	10B5.0/10.0 [69-50T]	7.5PB4.0/12.0 [77-40V]	5.0P7.0/6.0 [85-70L]	5RP5.0/12.0 [95-50V]			

色見本の記号は、マンセル値を表し、[ ] 内の記号は、日本塗料工業会標準色見本帳における色彩記号を表しています。

### 参考 -1

## 日本塗料工業会標準色見本帳とマンセル表色系の対応

日本塗料工業会標準色見本帳の色彩記号は、マンセル表色系の色相、明度、彩度の値を独自の記号体系で表したものです。色彩記号が解れば、その値をマンセル値に換算することができます。



このガイドラインでは、発行年度区分を省略して表記しています。

色相	色相区分	マンセル色相	色相	色相区分	マンセル色相
R (赤)	02	2.5R	BG (青緑)	52	2.5BG
	05	5.0R		55	5.0BG
	07	7.5R		57	7.5BG
	09	10R		59	10BG
YR (黄赤)	12	2.5YR	B (青)	62	2.5B
	15	5.0YR		65	5.0B
	17	7.5YR		67	7.5B
	19	10YR		69	10B
Y (黄)	22	2.5Y	PB (青紫)	72	2.5PB
	25	5.0Y		75	5.0PB
	27	7.5Y		77	7.5PB
	29	10Y		79	10PB
GY (黄緑)	32	2.5GY	P (紫)	82	2.5P
	35	5.0GY		85	5.0P
	37	7.5GY		87	7.5P
	39	10GY		89	10P
G (緑)	42	2.5G	RP (赤紫)	92	2.5RP
	45	5.0G		95	5.0RP
	47	7.5G		97	7.5RP
	49	10G		99	10RP

明度区分	マンセル明度
95	9.5
92	9.2
90	9.0
85	8.5
80	8.0
75	7.5
70	7.0
65	6.5
60	6.0
55	5.5
50	5.0
40	4.0
30	3.0
20	2.0
10	1.0

彩度区分	マンセル彩度
A	0.5
B	1.0
C	1.5
D	2.0
F	3.0
H	4.0
L	6.0
P	8.0
T	10.0
V	12.0
W	13.0
X	14.0

### 参考 -2

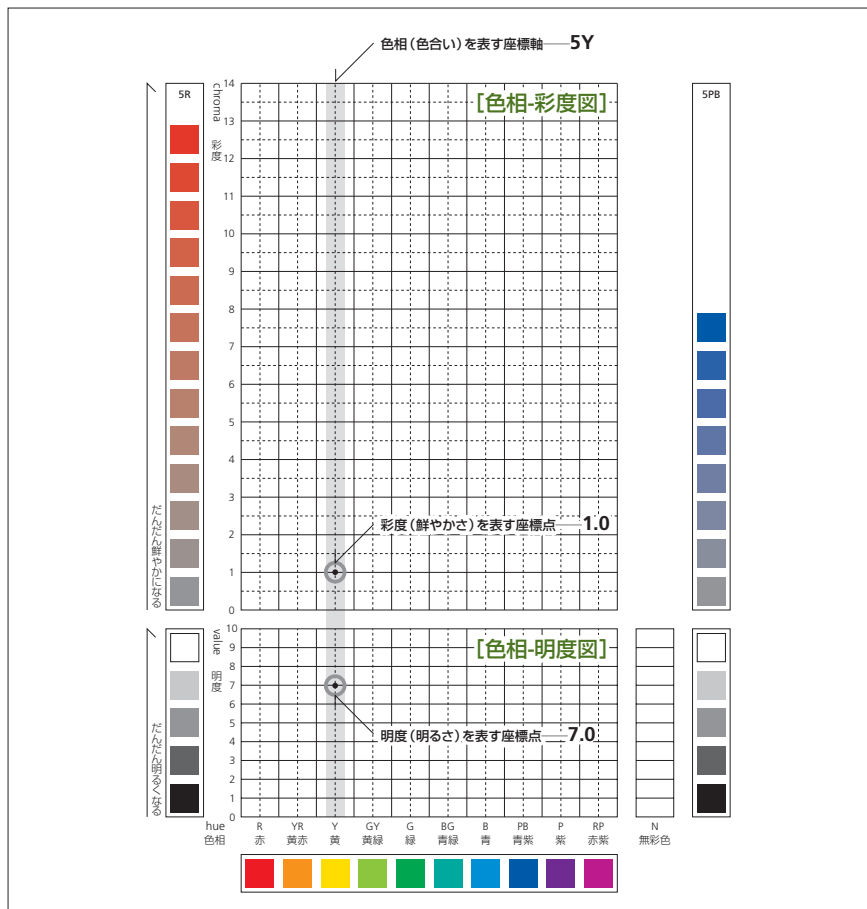
## マンセル表色系による色彩分布図

このガイドラインでは、現地調査によって得られた建築物等の色彩（マンセル値）を色彩分布図に変換し、各景観類型における色彩の分布状況や傾向等を分析しています。

色彩分布図は、色相、明度、彩度という3つの属性によって表される色の分布を、二次元の平面に置き換えてグラフ化したものです。

このため「色相-明度図」と「色相-彩度図」の2つの図から成り立っており、2つの点で1つの色彩を表します。

例えば、5Y 7.0 / 1.0 というマンセル値は、左の図のように表します。



マンセル表色系による色彩分布図の見方

# 05

## 景観色彩の 配慮事項



### 05-1

#### 景観色彩を整える 10のポイント

##### ●個々の色彩を考える前に

今ある景観を整え、より美しい景観へと充実させていくためには、個々の色彩の善し悪しを考える前に、より広い視点で計画対象を取り巻く環境を把握することが大切です。

##### ●10項目の配慮事項

ここでは、建築物や土木構造物などの色彩を考える際に、景観づくりの視点から気をつけたい配慮事項として、10のポイントを整理しています。

計画対象によって項目ごとの重み付けは異なりますが、各項目の趣旨を理解し、その考え方を具体的な色彩計画に反映していくことにより、バランスのとれた美しい景観を整えていくことができます。

各項目の詳しい内容については、次ページ以降で紹介しています。

配慮事項	考え方
景観色彩の秩序	秩序ある景観をつくるために、景観の中で公共性の高い交通標識や季節感のある花などを目立たせ、建築物や土木構造物など、永い時間同じ場所にあるようなものの色彩は控えめにする。
地域性・地区性	立地する場所の特性を考慮し、商業地では賑わいを持たせ、住宅地や田園、山間などでは落ち着きが得られるようにするなど、それぞれの雰囲気にならわしい色彩の使い方を考える。
町並みの連続性	計画対象の周囲にある現況の色彩を把握し、それらと連続性や共通性を持たせ、町並みとして共通の雰囲気が醸成されるように工夫する。
建築物等の慣例色と騒色	建築物等によく用いられる暖色系の中・低彩度色を尊重し、周囲の人が不快に感じるような奇異な色彩や配色を避けるようにする。
建築物等の色彩調和	周囲の建築物等と色相やトーンをそろえ、調和感のある町並みをつくる。また、建築物の各部位の色彩を同色相でそろえるなど、バランスのとれた外観となるよう工夫する。
建築物等の規模や形態との調和	色彩の面積効果を理解し、大面積で用いられる建築物等の色彩は慎重に検討する。色の塗り分けは建築物等の形態を考慮し、凹凸等形態の特徴を生かすように行う。
景観と色彩の心理的効果	明暗、寒暖など色彩の心理的効果を理解し、建築物等のイメージづくりに生かす。一方、色彩の心理的効果を偏重し、自然景観の中の派手な緑など、安易に派手な色彩を用いないように注意する。
色彩の経年変化とメンテナンス	色彩の経年変化を考慮し、大きな面積には褪色や汚れに強い低彩度色を用いる。また、美観を保つために定期的なメンテナンスを心がける。
安全性とバリアフリー	景観の中で重要な情報を担っている交通標識や公共サインなどの色彩を妨げないようにして、多くの人が安全に過ごせる景観を整える。
屋外広告物と景観の調和	屋外広告物も色彩景観の一端を担っていることを理解し、単に目立つだけの広告物から、周囲の町並みと調和し、建築物等のイメージをより良くするような広告物へと発展させる。

色彩景観を整える 10 項目のポイント

## 05-2 景観色彩の秩序

### ●自然界の色彩の秩序

自然界では一般に、華やかでよく目立つ色彩は、小さな面積のものや季節・時刻によって動くものなどがもっており、大きな面積のものや長い時間同じ場所にあり続けるものは周囲の景観に馴染む穏やかな色彩で構成されています。

美しい自然景観が多くの人を魅了するのは、こうした色彩の秩序が保たれているからだといえるでしょう。

### ●自然に学ぶ色彩の秩序

私たちが暮らす都市景観や田園景観は、自然物と人工物が混在して構成されていますが、このような生活景観を考えると、このような生活景観を考えると、自然界の色彩の秩序に学ぶべきところがあります。

### ●目立たせる色と馴染ませる色

建築物や土木構造物などの色彩を考えると、とかく計画対象の色彩ばかりに目が向きがちですが、計画対象を客観的な視点で考察し、周囲の景観の中での役割を考えることも大切です。

一般に景観の中で目立たせるべき色彩は、小さなものや季節等によって変動するもの、サインとして特別な意味を持つもので、建築物や土木構造物等の色彩はどちらかというと景観のベースとして穏やかで周囲に馴染むことが求められます。

- 変化
- 一時的
- 小面積
- 強い対比
- 動的
- アクセント

- 例えば  
交通標識  
祭事の色  
花  
公共サイン  
交通機関の車両 など

- 例えば  
樹木の緑  
モニュメント  
建築物・アクセント  
建築物・低層部 など

- 例えば  
デッキ・橋・歩道橋  
ストリートファニチュア  
路面舗装  
建築物・中高層部  
建築物・屋根 など

- 不変
- 長期的
- 大面積
- 弱い対比
- 静的
- ベース

目立たせる色

高彩度色



中彩度色



低彩度色



ひかえめにする色

景観の中で目立たせるべき色彩要素と周囲に融和させるべき色彩要素の序列 (例)



夏を彩る稲や屋敷林の緑が映える散居集落の落ち着いた家並み





## 05-3

## 地域性・地区性

## ●メリハリのある色彩景観を創出するために

建築物等の色彩には、それぞれの立地環境を反映した地域性や地区性がみられます。

メリハリのきいた奥行きのある深い景観を創り出すために、現況の特徴を生かしながら、それぞれの地域・地区の違いを強調していくことも重要です。

## ●豊かな自然に恵まれた立地環境では

景観の基調となっている自然の色や植物の生きた緑が映えるように、鮮やかさや明るさを抑えた穏やかな色彩を基本とします。

## ●適度な賑わいが必要な商業地では

商店街などで協力しあい、外壁基調色をそろえ、庇やショーウィンドウなどにアクセントカラーで賑わいを演出したり、季節や歳事にあわせたテーマカラーを用いるなど、そのまち共通の雰囲気の中にも賑わいが感じられるようにします。

## ●閑静な住宅地では

派手な色彩を避け、隣の住宅と色相やトーンをそろえ、住環境にふさわしい安らぎと落ち着きのある色彩が連なるようにします。

## ●規模の大きい施設が多い工場地では

単色のデザインなど、単調な外観を避け、スケール感を軽減するよう色彩を分節化するなど、親しみやすいデザインにするとともに、外装のメンテナンスにも留意し、殺伐とした印象を与えないようにします。



豊かな緑の色彩が基調となっている扇状地の田園景観—入善町



ブルーのアクセントで賑わいを演出した店舗—富山市



地域性のある素材や工芸品などを活用した店舗—井波町



ストライプパターンでシャープさを演出した工場—新湊市



穏やかなグレーを基調にサッシなどに鮮やかなアクセントカラーを配した工場—新湊市



豊かな緑の中で落ち着いた色調の屋根や外壁が安らぎを感じさせる住宅地—婦中町

## 05-4 町並みの連続性

### ●景観は色彩のモザイク

私たちが目にする景観は、モザイク画のように様々な色彩によって構成されています。

景観の中で、色彩は単独で存在するのではなく、常に別の色と隣接し、互いに影響を与えあいながら存在しています。

ひとつひとつの色彩はきれいでも、周囲との調和、全体としての調和が感じられなければ、美しい景観にはなりません。

### ●色と色の関係が創り出す町並みの雰囲気

住宅街や商店街などは、用途や規模などに共通性のある建築物等が連なって、その場所特有の雰囲気をつくり出しています。

こうした町並みでは、用途や規模ばかりでなく、その町並みの基調となるような色相やトーンが感じられるよう、色彩にも共通性を持たせ、その場所にふさわしい景観を整えていくことが大切です。

### ●共通性の中にも適度な変化を

色彩に共通性のある町並みは、美しくその場所にふさわしい雰囲気を感じさせます。

一方、極端に統一されすぎた色彩は景観の中では違和感を感じさせる要素になりかねません。

木の葉の緑が樹種ごとに微妙に異なるように、建築物等の色彩も連続性や共通性の中に、適度な変化を計画することにより、いっそう豊かな景観を創り出すことができます。



黒い釉薬瓦の屋根が連なる町並み—氷見市



漆喰や木材など伝統的な建築材料の落ち着いた色彩が連なる町並み—城端町



暖かみのある建築物等が連なるとやま都市 MIRAI 地区—富山市



木材の落ち着いた色調が連なる歴史的な町並み—高岡市

### ●シミュレーション

ひとりよがりな派手な色彩を避け、周囲の住宅とトーンをそろえました。



## 05-5

## 建築物等の慣例色と騒色

## ●建築物等の慣例色は暖色系の中低彩度色

ガイドラインの策定に先立って行われた県内の色彩現況調査では、建築物や土木構造物の多くが暖色系の落ち着いた色彩を基調としていることがわかりました。

こうした色彩の傾向は富山県ばかりにあてはまるものでなく、ほぼ全国に共通してみられます。このようにある対象に対して慣例的に用いられてきた色彩を慣例色と呼んでいます。

建築物や土木構造物等の慣例色は、暖色系色相の中・低彩度色です。

色彩に対する期待が過剰になると、慣例色から大きく離れた奇異な色彩を用いて、今までにない外観をつくらうとする発想につながりがちですが、慣例色は、歴史を重ねて洗練されてきた色彩であり、周囲との調和をはかる視点はもとより、耐久性に優れた飽きのこない外観をつくる視点からも大切にすべき色彩といえます。

## ●うるさい音は騒音・うるさい色は騒色

休眠や会話の妨げとなるような不快で大きな音を騒音と呼ぶように、日常生活の妨げとなるような色彩や多くのひとが不快感を抱くような色彩を騒色と呼ぶことがあります。

一般的には、周辺景観の中で特に異質な色彩や彩度の高い派手な色彩などが騒色となりやすいものです。

建築物等は個人の所有物であっても、その外観は多くの人目に触れ、共有性が高いものあることから、周囲の色彩を十分に把握し、強い違和感や不快感を与えるような騒色を生みださないように考慮することが重要です。



暖色系の中低彩度色が大多数を占める中心市街地—富山市



建築物の慣例色である暖色系の低彩度色が並ぶ町並み—富山市



落ち着いた親しみやすい印象の慣例色—婦中町



周辺の町並みから突出したピンク色のマンション—他県事例



派手な広告物が無秩序に並ぶ幹線道路



違和感の強い紫色の外観が緑地の緑よりも目立つ建築物—他県事例

## 05-6

## 建築物等の色彩調和

景観の中では、ひとつひとつの色彩と同時に、色彩相互の関係が重要になります。

多様な色彩の関係を調整し、より美しく秩序あるものとなるよう色彩を整えていくことが美しい景観を創り出す決め手になります。

どの色とどの色の組み合わせが美しいか、あるいはどの色とどの色の組み合わせが美しさを損なうか、という色彩調和の考え方については古くから様々な方法論が提唱されています。

こうした方法論のうち、建築物や土木構造物等の色彩を整えるためには、次の3つの配色方法が有効です。

それぞれの場所が持っている色彩調和の型を知り、それを継承するよう、町並みとの関係から建築物等の基調色を選定したり、建築物等の形態や素材を理解したうえで、各部の色彩をデザインすることが重要です。

## ●類似色でそろえる配色

グレー系やベージュ系など、色相や明度、彩度がよく似た色彩を組み合わせて用いる配色です。

最も統一感を得やすく、落ち着いた景観にまとめることができます。

一方、同じような色彩でそろえすぎると単調で不自然な景観になる場合もあります。

## ●色相をそろえる配色

色相に共通性を持たせながら、明度や彩度に変化をつける配色です。

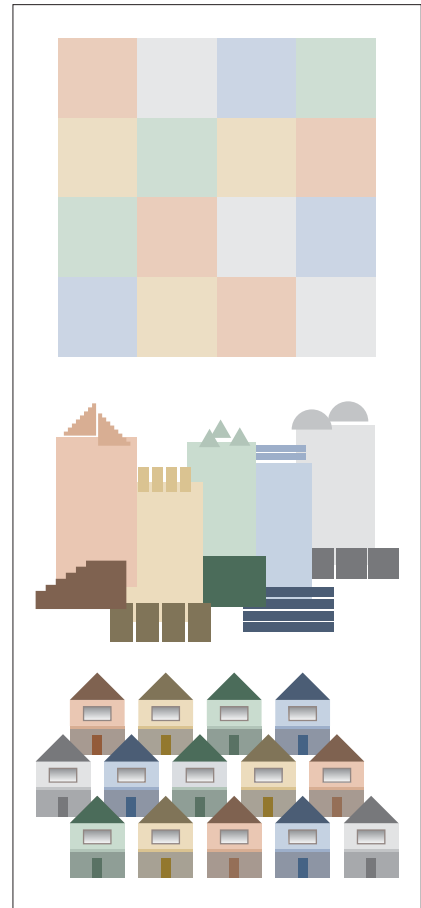
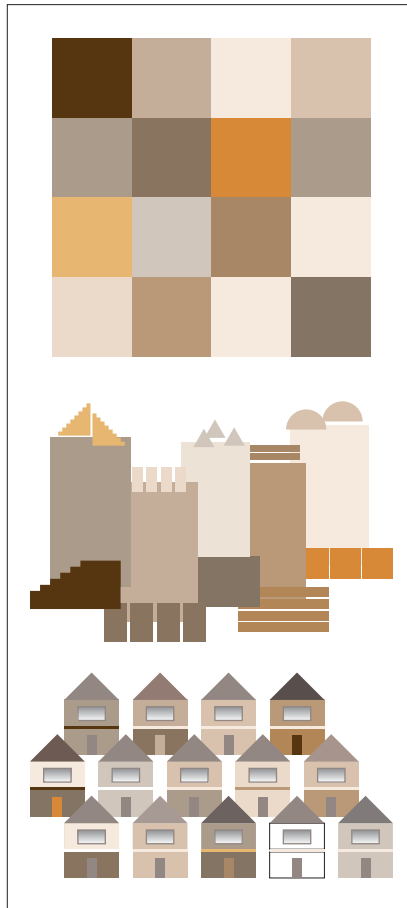
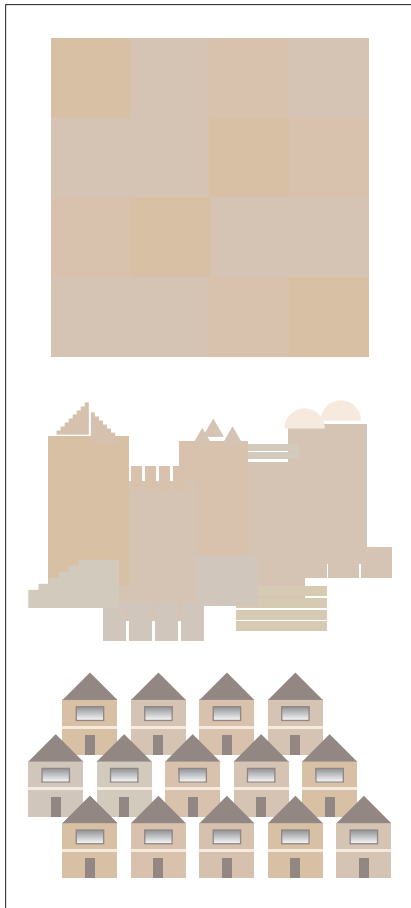
一般的な建築物は、YR(黄赤)系やY(黄)系など狭い範囲の暖色系色相で構成されている場合がほとんどです。

このような暖色系の色相で建築物等の色彩をそろえると、暖かく自然な景観にまとめることができます。

## ●トーンをそろえる配色

色のトーン(色調)をそろえ、色相に変化をつける配色です。

隣り合う建築物等の色彩を穏やかなトーンでそろえ、色相に変化を持たせると、全体としては落ち着きのある統一感が感じられ、個々の建築物には多色の華やかさが感じられる適度な変化のある景観にまとめることができます。



## 05-7

## 規模や形態との調和

## ●景観を構成する多様な規模、形態

景観を構成する建築物等には様々な用途があります。また、同じ用途の建築物等でも、その規模や形態はまちまちです。

地域の景観を整えていく上で周囲の景観との調和は欠かせませんが、同時にその建築物等の規模や形態に応じた適切な色彩を選択するよう心がけていくことも大切です。

## ●建築物等の形態と色彩

規模の大きい建築物等は、周囲に威圧感や閉鎖感を与える要素になる場合があります。特に単調な外観の建築物等はスケール感が強調され、周囲から突出した印象を与えかねません。

スーツやシャツ、ネクタイなどの色に変化をつけるように、建築物等の部位によって色彩を使い分けることにより、巨大なスケール感が軽減され、豊かな変化のある外観をつくり出すことができます。

## ●建築物等の規模と色彩

小さなカラーサンプルではそれほど派手に感じられなかった色彩が、大きな建築物として立ち上がったときには違和感のある派手な印象を与えることがあります。

このように、色彩は面積が大きくなるに従って、その特徴が強調される傾向があるといわれています。大きな面積では、派手な色彩はより派手に、暗い色彩はより暗く感じられるものです。

身の回りの衣服や小物と異なり、面積の大きい建築物等の色彩を扱うときには、できるだけ大きなサンプルで確認するなど、より慎重な姿勢が必要です。



建築物等の形態に合わせて色彩や素材に変化を持たせた建築物—黒部市



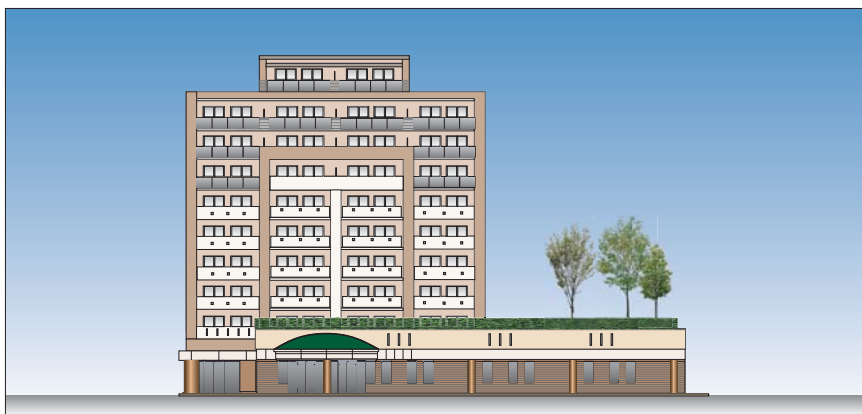
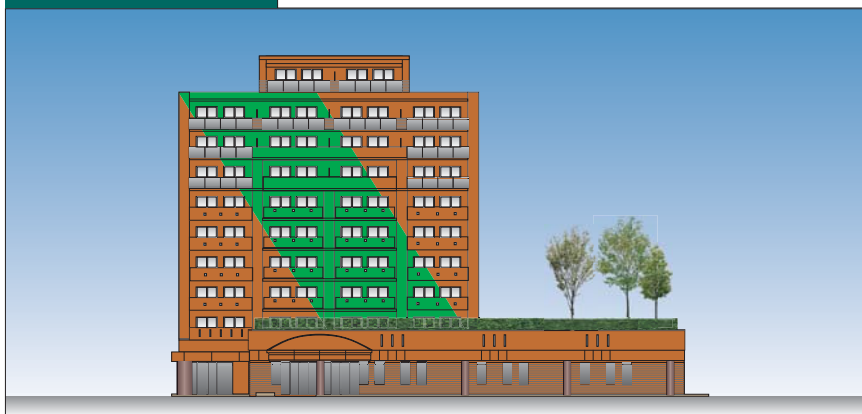
建築物のボリュームにあわせて異なる色彩を採用した建築物—富山市



低層階と中層階で色彩を分節化した集合住宅—小杉町

## ●シミュレーション

形態との関連性に乏しい色分けを避け、建築物の形態や規模などの特徴を生かしました。



## 05-8 景観と色彩の心理的効果

### ●色彩の心理的効果の活用

だれにでも好きな色と嫌いな色があるように、色の好みは千差万別です。

一方、色彩が与える心理的効果については、比較的多くの人々が共通の感覚をもっていることが実験や統計調査によって明らかになってきています。

このような色彩の心理的効果を建築物等のデザインに応用していくことによって、それぞれの建築物等にふさわしい外観を創出することができます。

### ●暖色・寒色、明るい色・暗い色

色彩の心理的効果の中でも、特に多くの人々が共通する感覚をもっているのが、色の寒暖と明暗です。

一般に暖色系と呼ばれる、R（赤）系、YR（黄赤）系、Y（黄）系の色相は見る人に暖かい印象を与え、寒色系と呼ばれる、BG（青緑）系、B（青）系、PB（青紫）系の色相は見る人に冷たい印象を与えます。

また、明度の高い色は明るく軽快な印象を与え、明度の低い色は暗く重厚な印象を与えます。

### ●色彩の心理的効果への偏重に注意

一方、こうした色彩の心理的効果は、立体的で規模の大きい建築物や土木構造物等に対しては、その効果が十分に検証されていない面もあります。

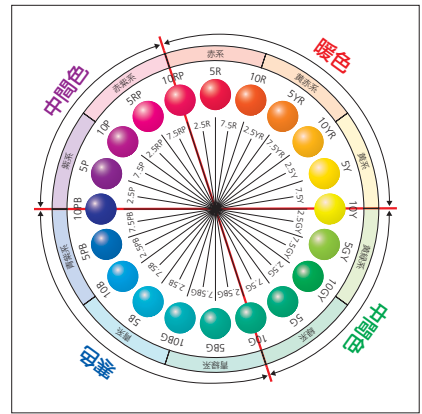
このため、色彩の心理的効果に過剰な期待を寄せるのは避けた方が無難といえます。

### ●問題の多い色彩の連想ゲーム

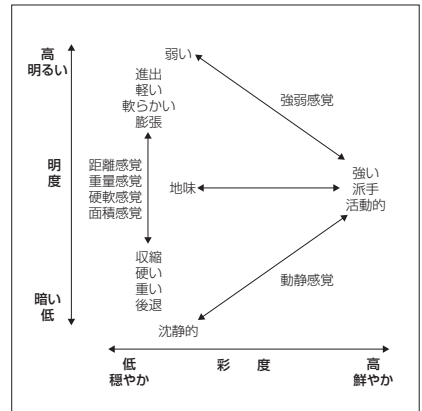
色彩の寒暖や明暗など多くの人々が共通の感覚をもっている心理的効果を景観づくりに生かすことは効果的ですが、そればかりに偏重して建築物等の慣例色から大きく逸脱した色を用いると、結果的に景観のイメージを損ねる要因になりかねません。

水辺の橋梁や水門に水色が多用されたり、豊かな自然の緑の中に派手な緑色の構造物が設置されるなど、色彩の連想ゲームのようにイメージを誇張し、派手な色彩を採用して周囲の景観を阻害している建築物や土木構造物が少なくありません。

色彩イメージを単純に転用することは避け、周囲の自然や町並みとの関係の中で、より良いイメージをつくり出すよう配慮することが重要です。



色相と色彩の心理的効果



明度・彩度と色彩の心理的効果



水の連想から水色を採用し、落ち着いた暖色系の町並みに違和感を与えている給水タンク—他県事例



ミカン色を採用し周囲の山並みから突出したミカンの選果場—他県事例



自然の緑よりも目立つイメージ先行型の緑色の橋

## 05-9

## 色彩の経年変化とメンテナンス

## ●ライフサイクルの長い建築物等の色彩

建築物や土木構造物等は規模が大きく、その色彩を変更することは容易ではありません。

また、風雨や日射、ばい煙などにさらされ、時間の経過に伴って、次第に汚れや劣化が進行していきます。

このため、建築物等の外装には当初の美しさを保つことができるよう、耐久性・耐候性に優れた仕上げ材や色彩を選択することが重要です。

## ●長持ちする色、しない色

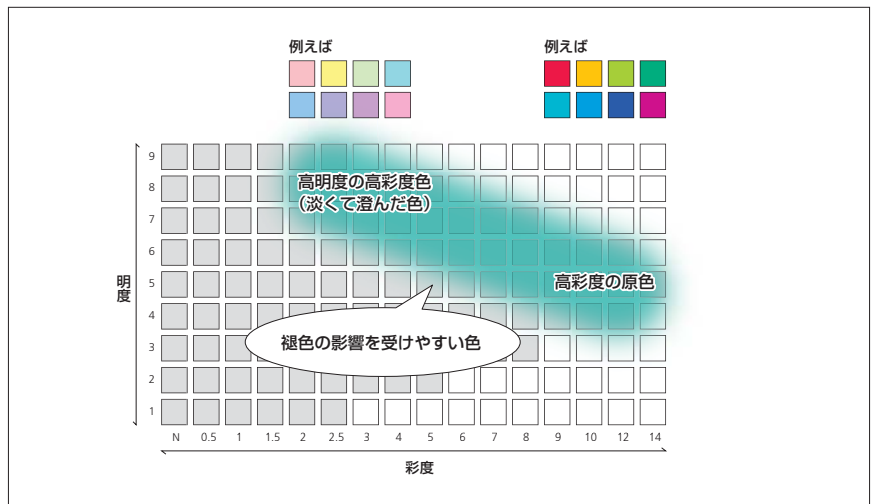
色彩の耐久性・耐候性は、仕上げ材そのものの性能によって大きく左右されますが、同じ材料でも比較的長持ちする色とそうでない色があります。

一般的に、派手なトーンや淡く澄んだトーンの色は、風雨や紫外線によって褪色しやすく、経年変化によって古びた印象を与えやすいといわれています。これらの色は、当初は美しく目を惹きますが、色の個性が強いため飽きられるのも早い色といえます。

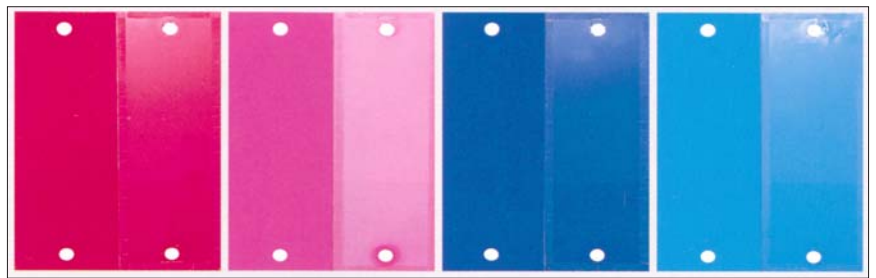
一方、まちなかでごく一般的にみられる慣例色は、目新しさはないものの、汚れに強く、耐久性・耐候性に優れた機能的な色彩です。

## ●メンテナンスでよみがえる建築物のイメージ

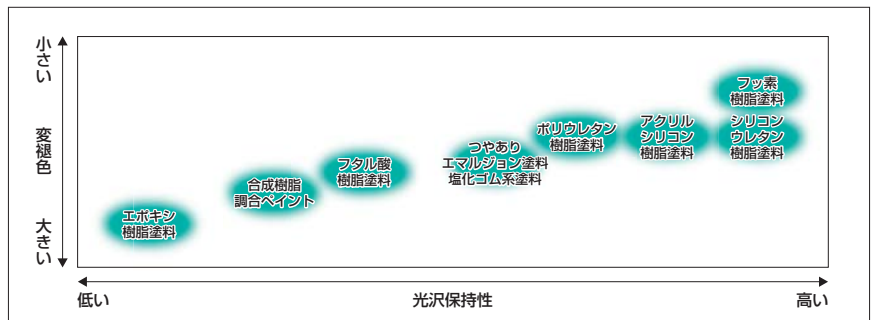
汚れて傷ついた建築物等は、殺伐とした印象を与えます。美しい町並みを保つためには、建築物等のメンテナンスが欠かせません。また、その際に現況の色彩を再検討することも大切です。メンテナンスを通して、当初のイメージを保ったり、より良く改善していくことができるのが、色彩の持つ優れた特徴のひとつといえます。



褪色の影響を受けやすい色の特徴



新しい塗色 (左) と紫外線などによって褪色した塗色 (右)



塗料の耐候性と光沢保持性

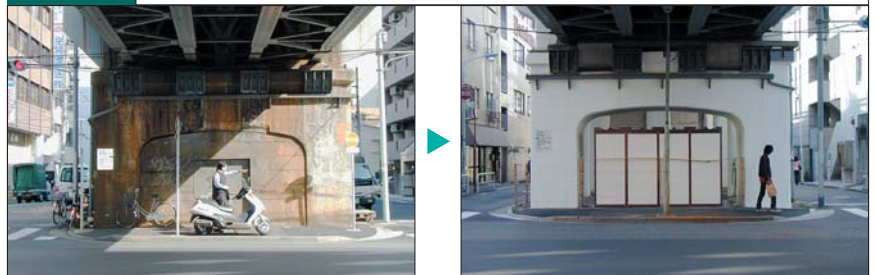
## ●事例

外装の改修とあわせて事業所全体の色彩計画を行い、清潔感のある外観としています。



## ●事例

錆の付着などで汚れた橋脚を明るい色彩でリニューアルし、ガード下の薄暗さを解消しています。



## 05-10 安全性とバリアフリー

### ●景観にも優しさを

景観は、多くの人の手によって作り出され、多くの人が関わりを持つものです。

このため景観には、美しさと同時に、多くの人が安心して生活することができるような優しさが求められます。

### ●派手な広告や店舗は色彩景観のバリア

都市部や幹線道路の沿道には派手な広告物や店舗等がみられますが、こうした色彩が生活者の安全を妨げるバリアになってしまうことがよくあります。一般に、都市景観の中で派手な色彩は、信号や道路標識など公共性の高いサインとして機能している例が多く、広告物や店舗にまで無秩序に派手な色彩が用いられると、重要な情報が伝わりにくくなってしまいます。

### ●目立つことと安全性のバランス

よく目立つ派手な広告物や店舗は、集客の要素になりますが、一方では来客の安全性を妨げる要素にもなります。色彩は使い方次第で敵にも味方にもなることを考慮し、目立つことと安全に暮らせることのバランスを考慮しながら、優しさのある町並みを整える視点が大切です。

### ●せっかくの点字誘導ブロックも...

一方、都市景観の中では本来目立つべきはずのものが目立たず、色彩のバリアとなっている例もあります。

点字誘導ブロックは、路面との適度な明るさの対比があることによって初めてその機能を果たします。景観との調和を考慮しながら、その存在が弱者にもわかるよう配慮が必要です。



道路標識よりも目立ち安全性に問題のある広告物—他県事例



ドライバーのわき見を誘発するような派手な広告物—他県事例



道路標識よりも目立つ広告物—他県事例

### ●シミュレーション

周囲の路面との明度差をはっきりさせ、ブロックを見分けやすくしました。



明度差 0 程度



明度差 3 程度

黄色いブロックを採用する場合でも、周囲の路面と適度な明度差が得られるように考慮する必要があります。右の例では、周囲の路面の明度を下げ、黄色いブロックが明るく浮かび上がるように調整しています。



明度差 2 程度



## 05-11

## 屋外広告物と景観の調和

## ●富山県屋外広告物条例の遵守

富山県では、美観風致を維持するとともに、公衆に対する危害の防止を図ることを目的として、富山県屋外広告物条例を施行しています。

広告物の設置にあたっては、条例を遵守することはもとより、広告物が地域の景観を構成する重要な色彩要素であることを認識し、美しい広告景観を整備するよう努めてください。

## ●事業活動に欠かせない広告物

広告物は、掲出する立場にとっては、事業活動の宣伝ツールですが、それを見る人にとっては、町並みの景観を構成する重要な色彩要素のひとつです。

広告物の無秩序な色彩が混在することによって、町並みの雰囲気が増損されることは、ひいては広告主の建築物や事業そのものの価値が増損されることとなります。

広告物に派手な色彩を使っていけないというわけではありません。

広告物の色彩は周囲の景観とのつながりを考慮し、色彩表現が過剰にならないようにすることが重要なのです。

ここでは、屋外広告物のデザインの中でとりわけ重要な色彩の考え方について一例を紹介します。

## ●屋外広告物の考え方

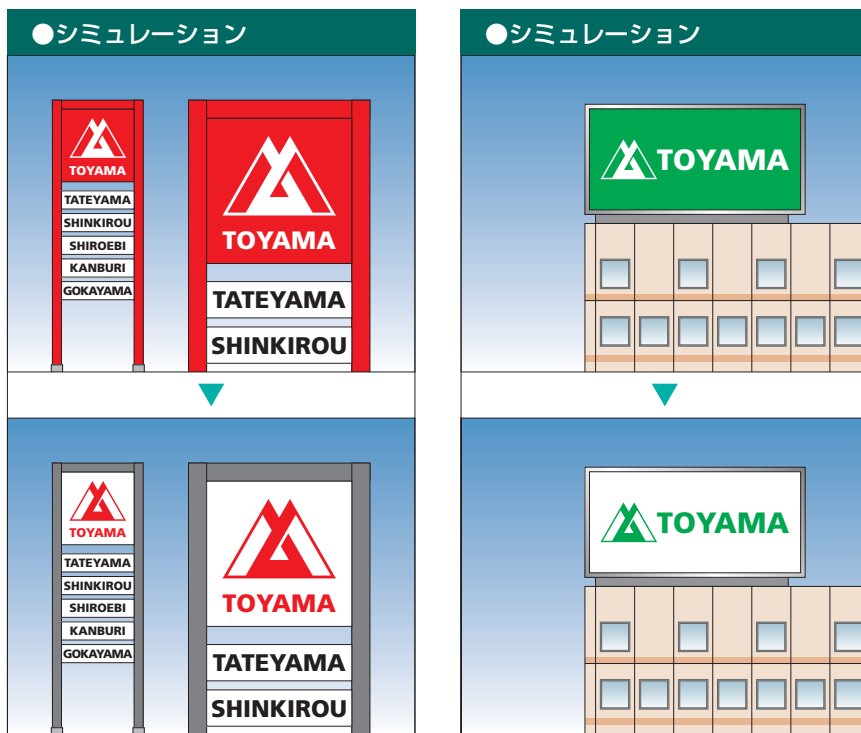
広告物の設置にあたっては、次のような点に配慮が必要です。

広告物の色彩は目立つことばかりでなく、周囲との調和に配慮し、派手な高彩度色を大きな面積で用いることを避ける。

交通標識や公共サインなどの近くに、これらと混同するような配色の広告物を設置することを避ける。

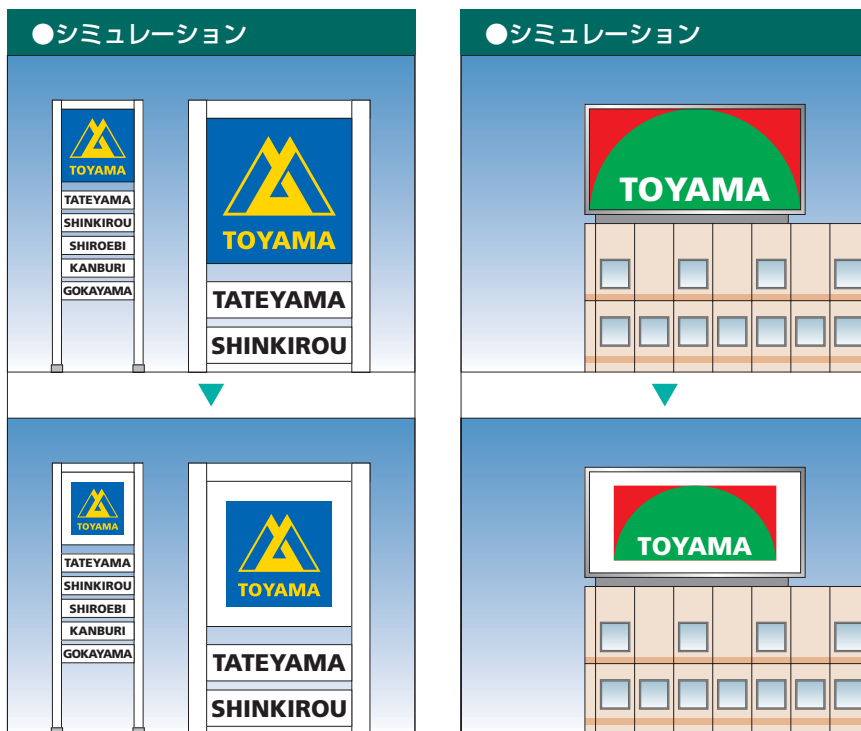
## ●景観との調和を考慮した広告物のカラーデザイン手法 1—反転表現

地色に高彩度色が用いられている場合は、配色を反転し図的要素に高彩度色を用いると、色彩のイメージを保ちながら周囲との対比を和らげることができます。



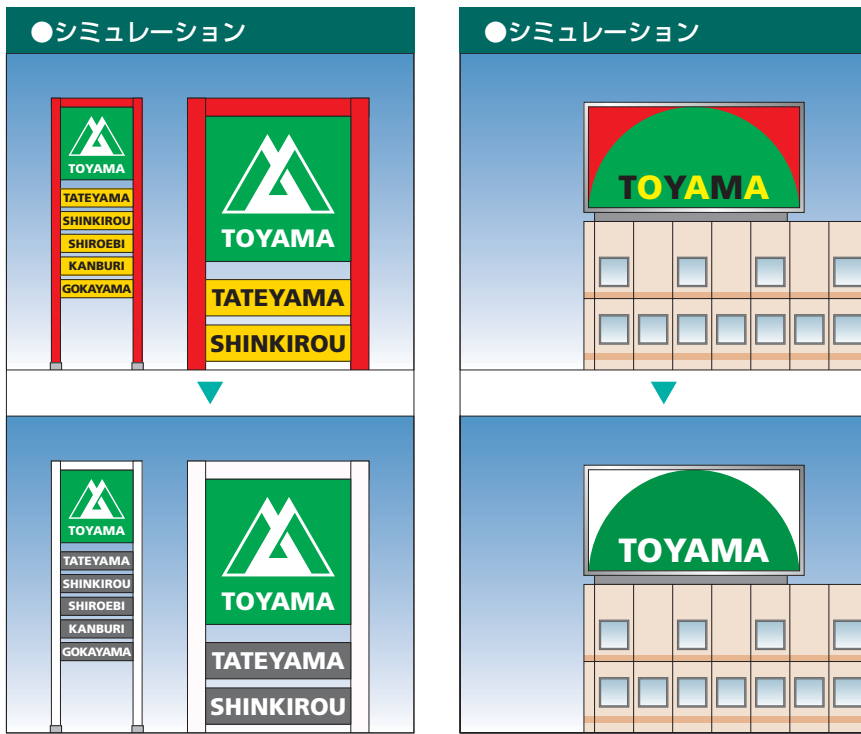
## ●景観との調和を考慮した広告物のカラーデザイン手法 2—額縁表現

広告物の四方に額縁のように白い枠を設けると、全体の面積は変えずロゴマーク等のイメージを保ちながら、高彩度色の面積を減らすことができます。



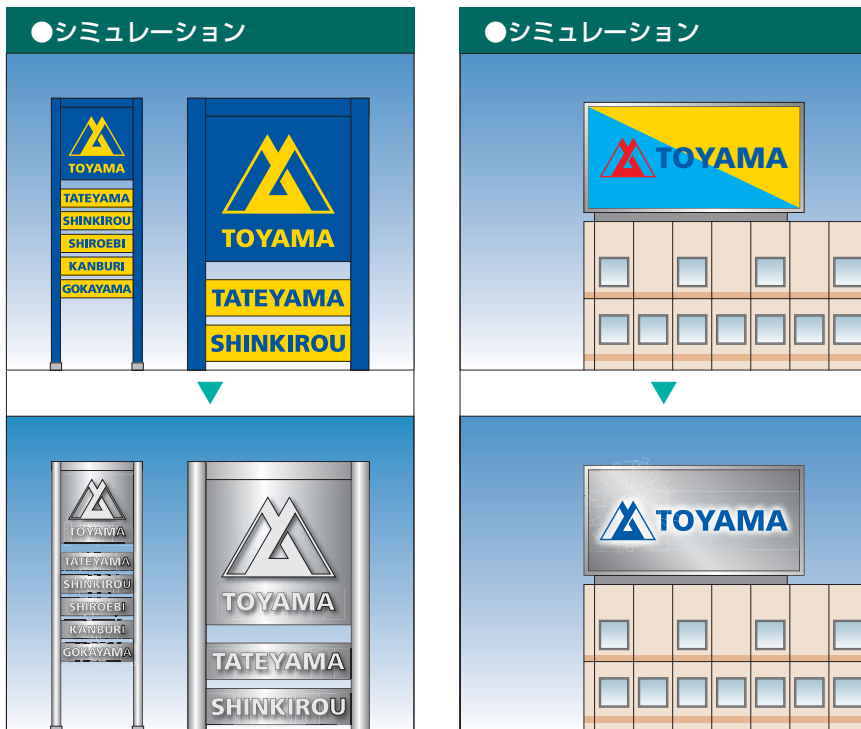
### ●景観との調和を考慮した広告物のカラーデザイン手法 3 一色数を抑えた表現

広告物の中で、CIカラーなど最も重要な色彩を残し、他の色は無彩色等で表現すると、企業イメージを保ちながらも周辺に対して優しい表現になります。



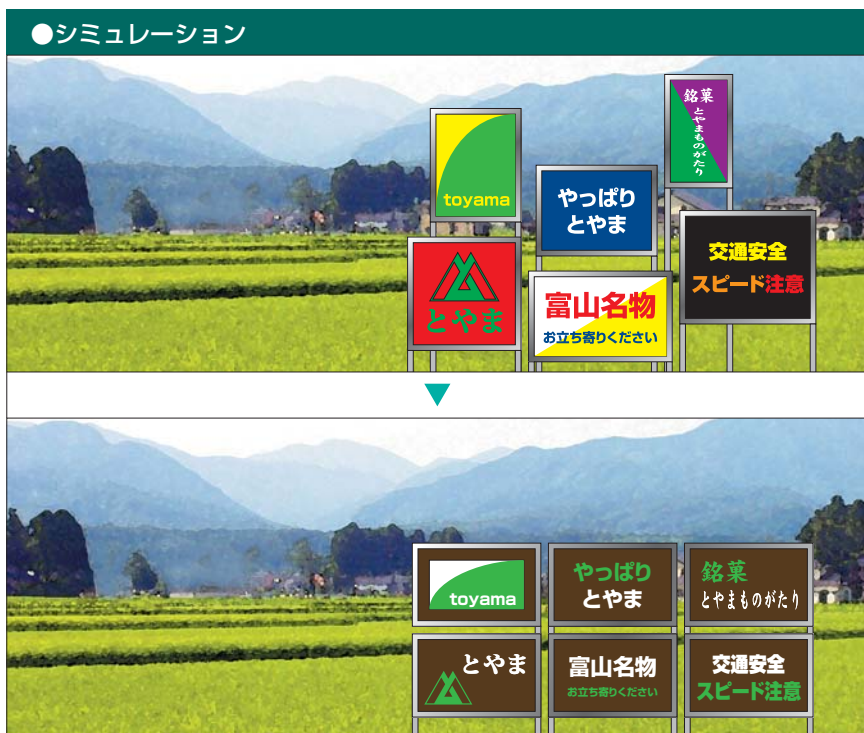
### ●景観との調和を考慮した広告物のカラーデザイン手法 4 素材色・質感を生かした表現

色彩による表面的な装飾ではなく、木材や金属などが持つ本来の素材感を生かし、照明なども工夫すると、より高級感のある普遍的な表現になります。



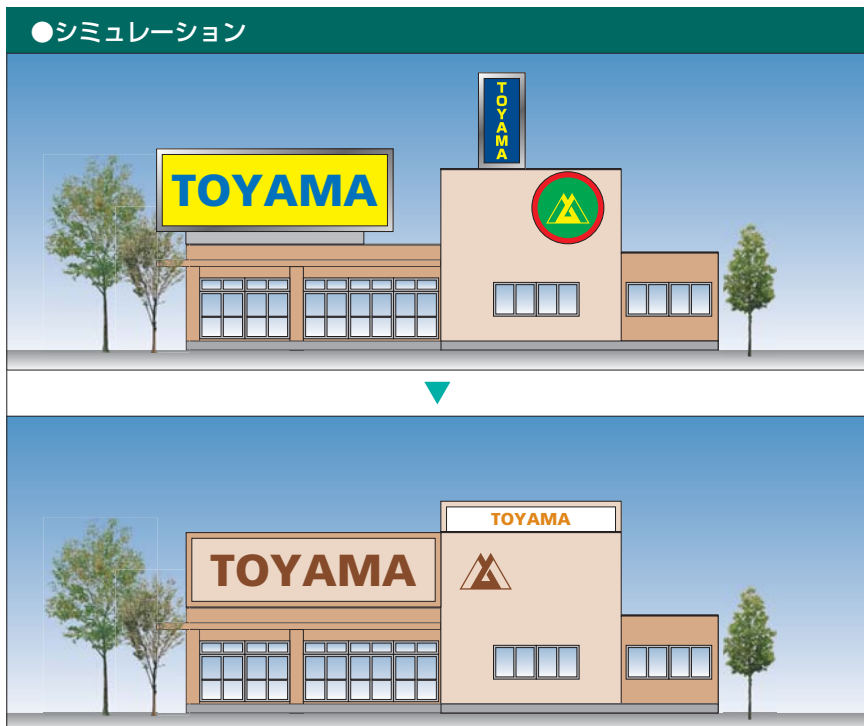
## ●景観との調和を考慮した広告物のカラーデザイン手法 5ー背景との調和と集約化

周囲の景観と対比の少ない色彩に地色をそろえるなど、色彩に共通性を持たせ、形態や材質をそろえてユニット化すると、全体のイメージアップにつながります。



## ●景観との調和を考慮した広告物のカラーデザイン手法 6ー建築物等との調和

広告物の設置方法を工夫し、建築物本体と色彩や形態に共通性を持たせると、まとまりのある外観となり、建築物全体の雰囲気向上します。



## ●CIカラー

近年、多くの企業でCI（コーポレート・アイデンティティ）計画が導入され、ロゴマークやシンボルカラーなどによって企業イメージの明確化が図られています。

しかし、CIカラーは印刷物や製品への表示などを対象に計画されており、小さな面積でもよく目立つ赤や青、緑などの原色が採用されているケースがほとんどです。

このような色彩が、大きな広告物として、あるいは店舗の外装色としてまちなかに氾濫すると、町並みの景観を混乱させる要因になりかねません。

CIカラーだから変えられないという姿勢ではなく、地域の景観を考慮し、柔軟に対応していく姿勢がより良い企業イメージにつながるものです。

近年では景観との調和を考慮し、原色でない控えめな色彩のCIカラーを定めたり、地域によって色彩の表示方法に差をつける企業も増えてきました。

CIカラーは本来、企業イメージを向上させるための色彩です。地域と共存していくために従来の目立てばよいという発想は通用しにくくなってきているのではないのでしょうか？

## 06

景観類型別  
色彩指針

## 06-1

## 景観類型の考え方

## ●建築物等の色彩と周囲の景観

建築物や土木構造物等の色彩は、そのものの美しさと同時に、周囲の町並みや自然等との関係がトータルに調和し、建築物や土木構造物等を含む周辺景観全体が美しく秩序あるものに保たれていることが必要です。

## ●7つの景観類型

建築物等を取り巻く景観はひとつひとつ異なりますが、このガイドラインでは、富山県全体の景観を次のような7つのパターンに類型化し、それぞれの現況や色彩景観づくりの方向性を示すと同時に、より具体的に「避けた方がよい色」や「おすすめの色」を提案しています。

各類型には、厳密な地域区分はありません。建築物等の色彩を検討する前に、現地の景観を確認し、右表の中から検討対象がどの類型に近い地域にあるかを判断してください。

イメージ	景観類型	景観の特徴
	山岳里山景観	立山連峰からより身近な里山まで、周囲を傾斜地の緑で覆われた山間部の景観です。豊かな自然の緑を生かし、緑の中にとけ込むような景観づくりが求められる地域です。
	海岸景観	富山湾を取り囲む広がりのある眺望を持つ海岸周辺の景観です。浜黒崎海岸のような砂浜や阿尾の浦のような岩浜など浜辺の様子は多様ですが、いずれも開放的な海との調和が求められる地域です。
	田園景観	砺波平野や黒部川扇状地などの水田や畑などが広がる田園地域の景観です。集落などの周囲を取り囲む作物の緑やどこまでも続く開放的な空などとの調和が求められる地域です。
	商業・業務景観	市街地中心部や幹線道路沿道など多様な商業施設や業務系施設が集積した都市的な景観です。多くの人が集まり交流する町の顔ともいえる地域です。地域の特性上、適度な賑わいも求められます。
	住宅地景観	戸建て住宅を主体に住居系施設が集積した住宅地の景観です。隣接する建築物等との連続性を考慮し、落ち着きと安らぎのある景観づくりが求められる地域です。
	産業施設景観	工場や倉庫などが集積し、製造や物流の拠点となっている地域の景観です。大きなスケールの人工物が多数立地することから、明るく親しみやすい景観が求められる地域です。
	歴史的町並み景観	宿場町や門前町など、伝統的様式の建築物などが多数残っている歴史的町並みの景観です。木材や和瓦など、伝統的な建築材料の穏やかな色彩を生かした景観づくりが求められる地域です。

7つの景観類型とその特徴





# 山岳里山景観

立山連峰からより身近な里山まで、周囲を傾斜地の緑で覆われた山間部の景観です。豊かな自然の緑を生かし、緑の中にとけ込むような景観づくりが求められる地域です。

## 現況の色彩



外壁 : 10YR8.0/2.0 屋根 : N5.0

暖色系色相を基調とし濃淡の対比をつけた建築物—宇奈月町



外壁 : 10YR9.0/1.0 屋根 : 10R3.0/6.0

暖色系色相を基調とし濃淡の対比をつけた建築物—立山町



外壁 : 10YR9.0/1.0 屋根 : 5.0YR2.0/1.0

オフホワイトの外壁とこげ茶色の屋根を組み合わせた建築物—立山町



外壁 : 10YR6.0/4.0

落ち着いたライトブラウンを基調とした建築物—宇奈月町



外壁 : 5.0Y8.0/1.0 屋根 : 10R5.0/12.0

オレンジ色の屋根を採用した建築物

### ●オフホワイトの外壁に茶系の屋根が基本となっている現況の建築物等

立山駅周辺や宇奈月駅周辺などでは、明るく落ち着いたオフホワイトやベージュの外壁に、赤茶色やこげ茶色の屋根や柱型などを組み合わせた、暖色系色相の濃淡による配色が基本となっています。

### ●周囲の緑の中でひととき目を惹く高彩度の建築物等（屋根）

山岳里山景観地域の中には、屋根等に派手なオレンジやグリーンなどを採用したリゾート風の建築物等が比較的多くみられます。

これらの建築物等は観光や生活の基盤となっている自然の色彩、特に季節の移り変わりを伝える植物の生きた緑よりも目立ち、その美しさを妨げる要因になっています。

## 色彩景観づくりの方向性

### ●基本配色を生かす

この地域では YR（黄赤）系、Y（黄）系色相を基調色相とし、明るい外壁と暗い屋根を組み合わせた配色が基本となっています。

このため、外壁の色彩は、YR（黄赤）系、Y（黄）系色相の高明度色の中から選択することが基本といえます。

### ●屋根の色彩にも十分な配慮を

傾斜地に立地する建築物等は高所や遠距離からも見えることから、屋根の色彩にも十分な配慮が必要です。

周囲の自然を生かすためには、植物の緑よりも鮮やかさや明るさを抑えた色彩が基本といえます。

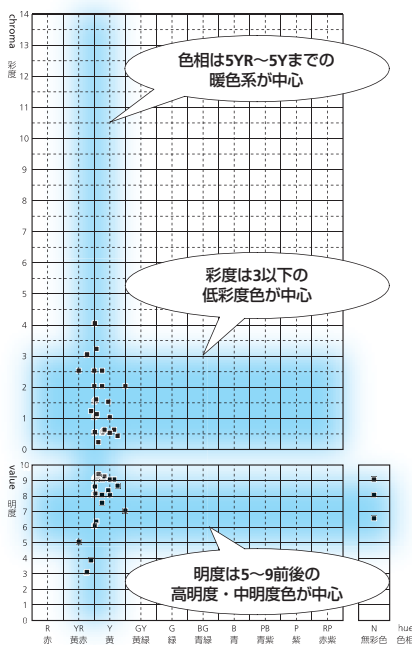
### ●陸屋根の建築物等は明るさを抑えて

自然公園法に基づく審査指針では、自然公園内に立地する建築物については、切妻などの勾配屋根が推奨されています。

明るさや鮮やかさを抑えた勾配屋根を採用することにより、明るい外壁を採用しても、周囲の緑を生かした外観保つことができます。

一方、陸屋根の建築物等については、高所や遠距離から見える外壁面が大きくなるため、勾配屋根の建築物等よりも外壁の明るさを抑え、より落ち着いた印象をつくるのが大切です。

また、陸屋根についても、高所からの眺望に影響を与えることから、周囲の緑よりも鮮やかさや明るさを抑えた色彩とすることが必要です。

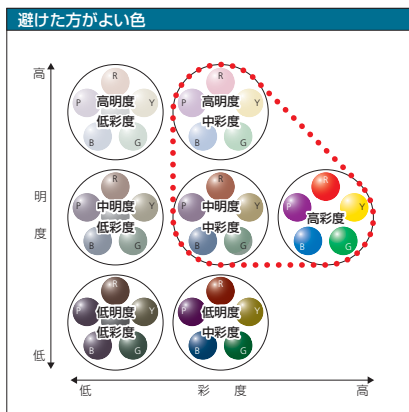


現況における山岳里山景観の色彩分布 [外壁基調色]

## 避けた方がよい色

山岳里山景観地域では、地域の景観の基盤となっている、自然の緑の色彩を生かすため、以下に挙げる、派手な色彩や色味の強い色彩を外壁等の基調色とすることを避けてください。

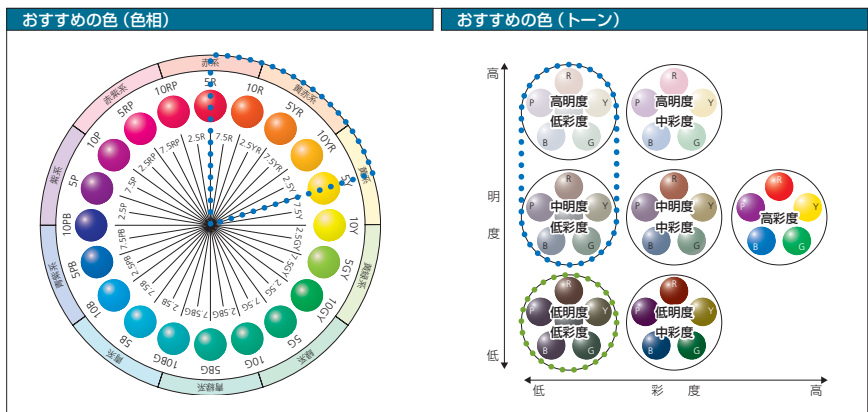
- 高彩度色
- 高明度・中彩度色
- 中明度・中彩度色



## おすすめの色

山岳里山景観地域では、現況において多くの建築物等に採用され、暖かく自然な印象をつくり出している暖色系の色相を推薦します。

- 5R～5Yの暖色系色相



青色の点線(●●)は、外壁基調色のおすすめの色を表し、黄緑色の点線(●●)は、屋根のおすすめの色を表しています。

## おすすめの色 (日本塗料工業会標準色見本帳より)

### ●高明度・低彩度色

5.0YR8.5/1.0 [15-85B]	5.0YR8.0/1.0 [15-80B]	7.5YR8.0/2.0 [17-80D]	10YR9.0/0.5 [19-90A]	10YR8.5/0.5 [19-85A]	10YR8.5/1.0 [19-85B]
10YR8.5/1.5 [19-85C]	10YR8.0/0.5 [19-80A]	10YR8.0/1.0 [19-80B]	10YR8.0/1.5 [19-80C]	2.5Y9.0/1.0 [22-90B]	2.5Y8.5/1.0 [22-85B]
2.5Y8.5/1.5 [22-85C]	2.5Y8.5/2.0 [22-85D]	2.5Y8.0/1.0 [22-80B]	2.5Y8.0/1.5 [22-80C]	2.5Y8.0/2.0 [22-80D]	5.0Y8.0/1.0 [25-80B]

### ●中明度・低彩度色

5.0YR7.5/1.0 [15-75B]	5.0YR7.0/1.0 [15-70B]	5.0YR7.0/2.0 [15-70D]	5.0YR6.0/2.0 [15-60B]	7.5YR7.0/2.0 [17-70D]	7.5YR6.0/2.0 [17-60D]
10YR7.5/1.0 [19-75B]	10YR7.5/1.5 [19-75C]	10YR7.5/2.0 [19-75D]	10YR7.0/1.0 [19-70B]	10YR7.0/1.5 [19-70C]	10YR7.0/2.0 [19-70D]
10YR6.0/1.0 [19-60B]	10YR6.0/3.0 [19-60F]	2.5Y7.5/2.0 [22-75D]	2.5Y7.0/2.0 [22-70D]	2.5Y6.0/2.0 [22-60D]	5.0Y6.0/1.0 [25-60B]

## 色彩景観のポイント

### ●屋根と壁の色相をそろえよう

屋根と外壁の色彩をそれぞれ別々に考えるのではなく、屋根と外壁の色相をそろえ、建築物等全体に共通の雰囲気をつくると、より自然な外観にまとめることができます。

### ●シミュレーション

外壁と異なる色相を採用したオレンジや緑の屋根を変更し、外壁と色相をそろえました。



# 海岸景観

富山湾を取り囲む広がりのある眺望を持つ海岸周辺の景観です。浜黒崎海岸のような砂浜や阿尾の浦のような岩浜など浜辺の様子は多様ですが、いずれも開放的な海との調和が求められる地域です。

## 現況の色彩



外壁 : 5.0YR8.5/1.0 屋根 : 10YR3.0/0.5

明るい外壁のオーソドックスな建築物—高岡市



外壁 : 5.0BG8.5/1.0 屋根 : N2.0

やや青みを帯びた低彩度色の外壁の建築物—氷見市



外壁 : 7.5YR4.0/2.0 屋根 : 2.0

暗く落ち着いた外壁の建築物—氷見市



外壁 : 10YR9.0/1.5

全体が明るいアイボリーの建築物—朝日町



外壁 : 7.5YR7.0/2.5

ベージュとアイボリーの2色構成の建築物—朝日町

### ●明るい外壁と暗い屋根の対比

海岸景観地域に立地する住宅等は、木材の素材色を生かしたものや、明るく穏やかな色調の外壁を採用したものが多く、海辺らしい開放感を感じさせます。

一方、屋根には黒や焦茶の釉薬瓦を用いたものが多く、明るい壁と暗い屋根の対比は力強さを感じさせる色彩要素となっています。

### ●一部にみられる派手な色彩の宿泊施設

海岸景観地域には旅館や民宿などの宿泊施設が多くみられます。多くの建築物等はアイボリーやベージュなどの明るく落ち着いた色彩を基調としていますが、一部に赤茶色など、周囲と対比的な彩度の高い色彩を基調とした建築物等もみられます。

## 色彩景観づくりの方向性

### ●外壁は明るく穏やかに

この地域では、明るい高明度色が多用されています。

これらの色彩は、開放感のある海辺の景観ともマッチしており、穏やかな色調は青く澄んだ海を美しく見せる要素となっています。

このため、外壁等には明るく穏やかな色彩をできるだけ用い、現況の開放感を継承するように留意します。

### ●黒や焦げ茶の屋根で外観を引き締めて

戸建て住宅等、勾配屋根の建築物等については、黒や焦茶などの暗い色彩が多用されています。

海辺からは、白い砂浜から丘陵、山々へとつながる、富山ならではの起伏に富んだ景観を眺めることができますが、暗い屋根は、背後にある丘陵の緑に融和し、落ち着いた海岸景観を形成しています。

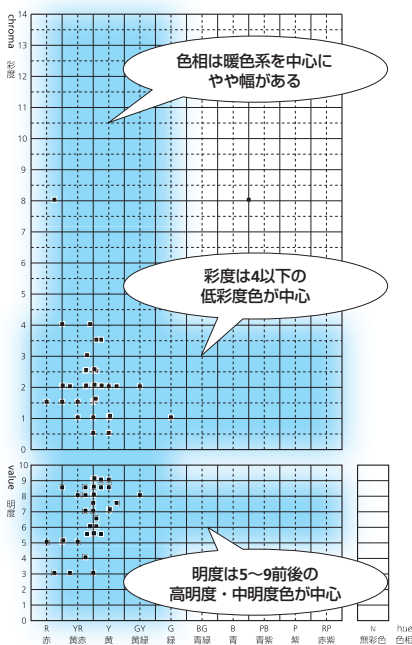
明るい壁と暗い屋根は、海にも山にも馴染みやすいバランスのとれた配色といえます。

### ●宿泊施設等は自然を生かす工夫を

現況、多くの宿泊施設等は陸屋根を採用しており、白っぽい箱形の建築物等が、海側からみた緑の丘陵景観の中からは、やや突出した印象を与えています。

宿泊施設等は、海や山など周囲の自然を誘客のより所としています。

このため、住宅と同じように、明るさを抑えた勾配屋根を採用するなど、自然の色彩を生かすような工夫を取り入れることが大切です。



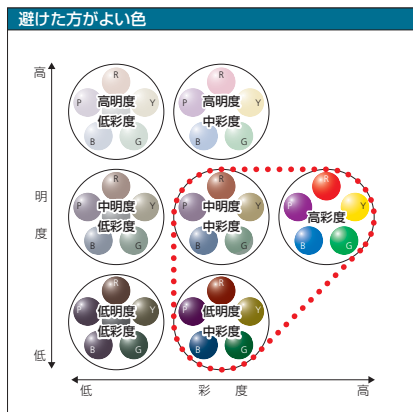
現況における海岸景観の色彩分布 [外壁基調色]



## 避けた方がよい色

海岸景観地域では、明るく開放的な海辺の自然景観を生かすため、以下に挙げる派手な色彩や色味の強い暗い色彩を外壁等の基調色とすることを避けてください。

- 高彩度色
- 中明度・中彩度色
- 低明度・中彩度色



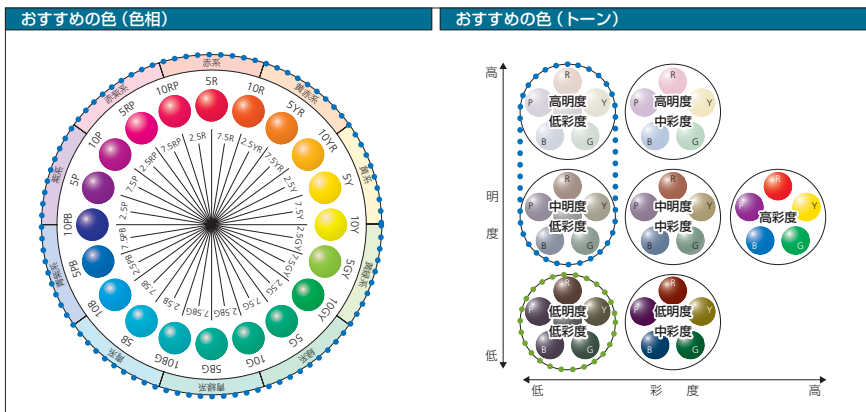
## おすすめの色

海岸景観地域では、暖色系を中心に、無彩色等を含む全色相を推薦します。ただし、暖色系以外の色相については、ごく低彩度（彩度1以下）の色彩とします。

- 暖色系色相を中心とする全色相

海岸景観地域では、海辺にふさわしい明るさと、海の青さを妨げることのない穏やかさのある高明度、中明度の低彩度色を推薦します。屋根色は低明度の色彩を用いるとよいでしょう。

- 高明度・低彩度色
- 中明度・低彩度色
- 低明度・低彩度色（屋根のみ）



青色の点線（●●）は、外壁基調色のおすすめの色を表し、黄緑色の点線（●●）は、屋根のおすすめの色を表しています。

## おすすめの色 (日本塗料工業会標準色見本帳より)

●高明度・低彩度色					
5.0YR9.0/0.5 [15-90A]	10YR8.5/0.5 [19-85A]	10YR8.0/1.5 [19-80C]	5.0Y9.0/0.5 [25-90A]	5.0G8.0/0.5 [45-80A]	N9.5 [N-95]
10YR9.0/0.5 [19-90A]	10YR8.5/1.0 [19-85B]	2.5Y9.0/1.0 [22-90B]	5.0Y9.0/1.0 [25-90B]	5.0BG8.0/0.5 [55-80A]	N9.0 [N-90]
10YR9.0/1.0 [19-90B]	10YR8.5/1.5 [19-85C]	2.5Y8.5/1.0 [22-85B]	5.0Y8.5/1.0 [25-85B]	5.0B8.0/0.5 [65-80A]	N8.5 [N-85]
10YR9.0/1.5 [19-90C]	10YR8.0/1.0 [19-80B]	2.5Y8.0/1.0 [22-80B]	5.0Y8.0/1.0 [25-80B]	5.0PB8.0/0.5 [75-80A]	N8.0 [N-80]
●中明度・低彩度色					
5.0R7.0/0.5 [05-70A]	10YR7.0/1.0 [19-70B]	2.5Y7.5/2.0 [22-75D]	5.0Y7.5/1.5 [22-75C]	5.0B7.0/1.0 [65-70B]	N7.5 [N-75]
10YR7.5/1.0 [19-75B]	2.5Y7.5/1.0 [22-75B]	5.0Y7.5/1.0 [25-75B]	5.0Y7.0/0.5 [22-70A]	5.0PB7.0/1.0 [75-70B]	N7.0 [N-70]

## 色彩景観のポイント

- 海辺では岩、石、砂を参考にしよう

海の青は季節や気象条件によって変化しますが、岩や石、砂などの色彩は変化しません。海辺の建築物等は、景観の基盤となっている岩や石、砂などの色を参考に外観の色彩を組み立てると、青い海とマッチした自然で飽きのこない配色にまとめることができます。



雨晴海岸の明るい砂浜



ヒスイ海岸の石—自然のグラデーション

# 田園景観

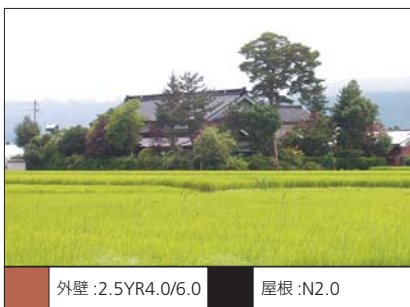
砺波平野や黒部川扇状地などの水田や畑などが広がる田園地域の景観です。集落などの周囲を取り囲む作物の緑やどこまでも続く開放的な空などとの調和が求められる地域です。

## 現況の色彩



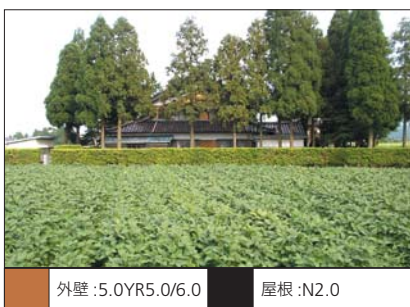
外壁 : 2.5Y6.0/2.0 屋根 : N2.0

低彩度の屋根と壁が屋敷林からのぞく建築物—入善町



外壁 : 2.5YR4.0/6.0 屋根 : N2.0

やや色味の強いトタンで改修した建築物—入善町



外壁 : 5.0YR5.0/6.0 屋根 : N2.0

屋敷林に周囲を囲まれた建築物—入善町



外壁 : 10YR8.0/2.0 屋根 : 5YR2.0/1.0

全体がYR（黄赤）の濃淡で構成された建築物—砺波市



外壁 : 10YR8.0/0.5

全体が白っぽい箱形の建築物—砺波市

### ●木材や漆喰、土壁などの素材色を基本とする現況の建築物等

入善の扇状地や砺波平野などには、広大な水田の中に屋敷林に覆われた住宅が点在する散居集落がみられ、豊かな米どころ富山の景観を特徴づける要素となっています。

散居の住宅等の色彩は、昔ながらの木材や漆喰、和瓦など、自然の素材色を生かしたものが主体となっています。

### ●新しい建築物や改修した建築物などに用いられる派手な色彩

工場や大規模小売店舗などの新しい建築物や、外装を改修した建築物などでは、塗装や新材などが用いられていますが、これらの中には、青や緑など派手な色彩も含まれており、自然の緑に囲まれた景観の中で目立つ要素となっています。

## 色彩景観づくりの方向性

### ●自然な表情の素材色を生かす

この地域では、暖色系色相を基本とする自然素材色が多用されています。

住宅等の建築物等については、色彩ばかりでなく素材についてもできるだけ伝統的に用いられてきたものを継承し、自然で落ち着いた景観にまとめることが大切です。

### ●改修時はもとの色を尊重して

外装の改修などにより、これまでになく新しい材料を用いる際には、できるだけもとの自然素材色を尊重し、派手な色彩の使用を避けることが大切です。

### ●新しい建築物等も緑で覆う工夫を

広大な田園景観の中では、建築物等の色彩が遠くからもよく見えます。

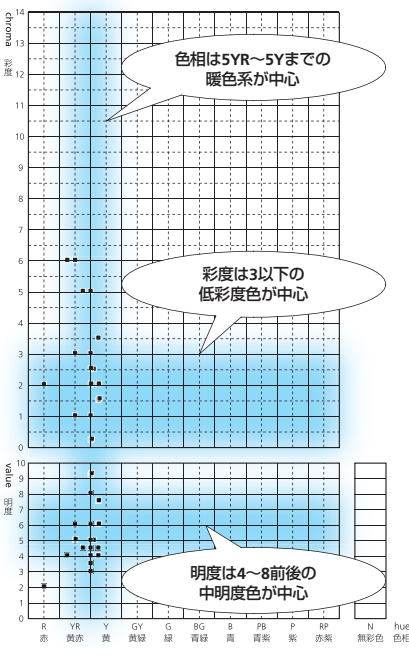
このため、工場や大規模小売店舗などの新しい建築物等は、周囲の景観と違和感なく調和するよう、自然素材色に近い穏やかな色彩を用いることが大切です。

また、散居の住宅のように建築物等の周囲を緑で囲むなど、建築物等の色彩が強く意識されないような配慮も必要です。

### ●屋根の色彩にも配慮を

周囲が開けた田園景観の中に立地する工場や倉庫、商業施設などの大規模な建築物等は、高所や遠方からもよく見えることから、屋根の色彩にも配慮する必要があります。

勾配屋根や陸屋根の色彩は、田園の緑がよく映え、汚れにも強い低明度、低彩度色が基本といえます。

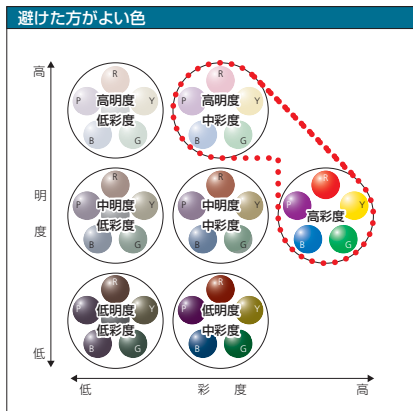


現況における田園景観の色彩分布 [外壁基調色]

## 避けた方がよい色

田園景観地域では、古くから継承されてきた営農の景観を生かすために、以下に挙げる、派手な色彩や明るく色味の強い色彩を外壁等の基調色として使用することを避けてください。

- 高彩度色
- 高明度・中彩度色



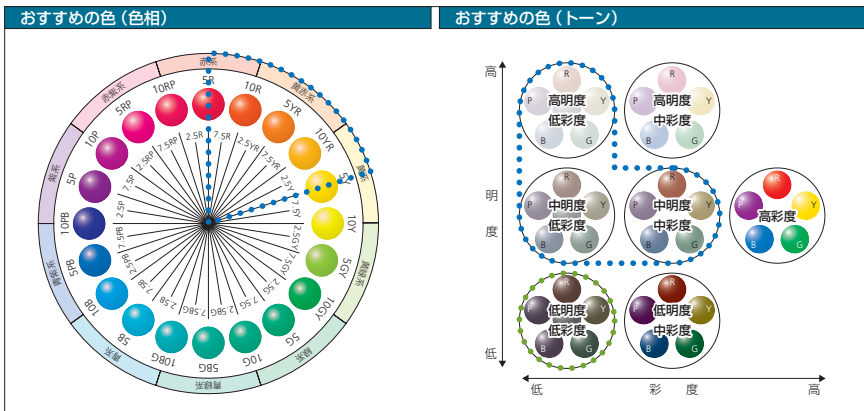
## おすすめの色

田園景観地域では、自然素材の色彩にみられ、地域の土色とも同じ色合いを持つ暖色系の色相を推薦します。

田園景観地域では、田園の緑よりも彩度が低い色彩や地域の土色に似た褐色系の色彩を推薦します。大規模建築物等の色彩は無彩色よりも暖色系の低、中彩度色の方がより自然な外観になります。屋根は低明度・低彩度色を推薦します。

- 5R ~ 5Yの暖色系色相

- 高明度・低彩度色
- 中明度・低彩度色
- 中明度・中彩度色
- 低明度・低彩度色(屋根のみ)



青色の点線(●●)は、外壁基調色のおすすめの色を表し、黄緑色の点線(●●)は、屋根のおすすめの色を表しています。

### おすすめの色 (日本塗料工業会標準色見本帳より)

●高明度・低彩度色					
7.5YR8.0/2.0 [17-80D]	10YR8.5/1.5 [19-85C]	10YR8.0/3.0 [19-80F]	2.5Y8.5/1.0 [22-85B]	2.5Y8.0/2.0 [22-80D]	5.0Y8.5/1.0 [25-85B]
10YR9.0/0.5 [19-90A]	10YR8.0/1.0 [19-80B]	2.5Y9.0/1.0 [22-90B]	2.5Y8.0/1.0 [22-80B]	5.0Y9.0/0.5 [25-95A]	5.0Y8.5/1.5 [25-85C]
●中明度・低彩度色					
5.0YR7.0/1.0 [15-70B]	7.5YR7.0/2.0 [17-70D]	10YR7.5/2.0 [19-75D]	10YR7.0/3.0 [19-70F]	2.5Y7.5/2.0 [22-75D]	2.5Y6.0/2.0 [22-60D]
5.0YR7.0/2.0 [15-70D]	7.5YR6.0/2.0 [17-60D]	10YR7.0/1.0 [19-70B]	10YR6.0/3.0 [19-60F]	2.5Y7.0/2.0 [22-70D]	5.0Y7.5/1.5 [22-75C]
5.0YR6.0/2.0 [15-60D]	10YR7.5/1.0 [19-75B]	10YR7.0/2.0 [19-70D]	2.5Y7.5/1.0 [22-75B]	2.5Y6.0/1.5 [22-60C]	5.0Y7.0/1.5 [22-70C]
●中明度・中彩度色					
7.5YR7.0/4.0 [17-70H]	7.5YR6.0/4.0 [17-60H]	10YR6.0/4.0 [19-60H]	2.5Y7.0/4.0 [22-70H]	2.5Y5.0/3.0 [22-50F]	2.5Y5.0/4.0 [22-50H]

## 色彩景観のポイント

- 生きた緑を生かすために

田園の緑を生かすためには、同じ緑色で張り合うのではなく、土の色など、緑の土台になっているような色彩を用いましょう。

また、周囲の集落に見られる屋敷林のように、外構に生きた緑を採り入れることも大切です。

### ●シミュレーション

派手な緑色の外観を地域の土色に変更し、周囲に高木の植栽を採り入れました。



# 商業・業務景観

市街地中心部や幹線道路沿道など多様な商業施設や業務施設が集積した都市的な景観です。多くの人が集まり交流する町の顔ともいえる地域です。地域の特性上、適度な賑わいも求められます。

## 現況の色彩



黄赤みを帯びたタイル張りの建築物—富山市



周囲の建築物等と外装材や色彩をそろえた建築物—富山市



穏やかな対比のストライプパターンを採用した建築物—富山市



高彩度色を組み合わせ使用している建築物



全国共通の派手な色彩を使用したチェーンストアの建築物

### ● 品格のある業務施設の色彩

富山市や高岡市などの中心市街地に立地する業務施設は、一般的に低・中彩度の穏やかな色彩を基調としたものが多く、品格のある町並みが形成されています。

### ● 建築物との調和が期待される広告物

商業施設については、建築物等自体は穏やかな色彩を採用しているものの、派手な広告物等が多数設置され、全体として町並みの品格を阻害しているような建築物等がみられます。

### ● 沿道商業施設の派手な色彩

沿道立地型の商業施設の中には、外装全体を広告物のように扱い、派手な高彩度色を基調とした建築物がみられます。特に、規模の大きいチェーン店にこのような傾向が強く、沿道景観を混乱させる要因になっています。

## 色彩景観づくりの方向性

### ● 町の顔となる品格ある色彩景観

商業・業務景観地域は、県民はもとより多くの人々が往来する、町の顔ともいべき場所です。

このため、建築物等の基調色は派手な色彩を避け、全体として品格のある色彩表現となるよう工夫することが大切です。

### ● アクセントカラーで

### 適度に変化のある色彩景観を

商業地域では魅力的で活気に満ちた色彩表現も必要になります。

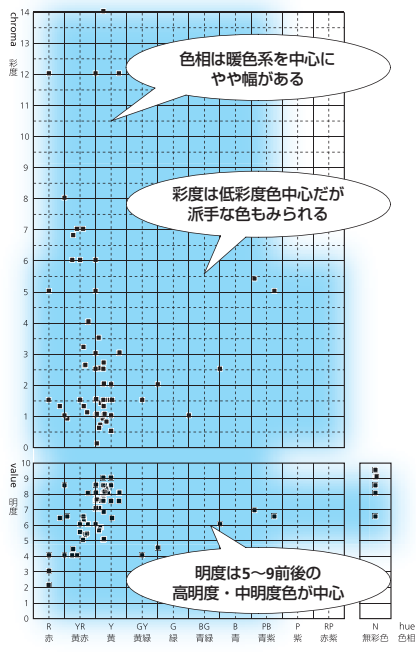
建築物等の基調色については、品格のある色彩が基本といえますが、店舗等のエントランスやショーウィンドウなどに季節の変化を感じさせるような色彩や、町並み単位で統一したテーマカラーなど、建築物等のアクセントになるような色彩を採り入れ、積極的に変化のある景観にしていけることも重要です。

### ● CIカラーと外装色の使い分けを

CIカラーは派手な原色が多く、建築物の基調色など大きな面積で用いると、穏やか自然景観や品格のある都市景観の中では、突出した印象を与えます。

また、ひとつの建築物等が派手な色彩を採用すると、周囲の建築物も競って派手な色彩を採用しはじめ、町並み全体の景観が秩序を失い、派手でなければいけないものになってしまいます。

このため、高彩度のCIカラーは建築物等の基調色ではなく、アクセントカラーと同じように、エントランスなど小さな面積で用いる配慮が必要です。

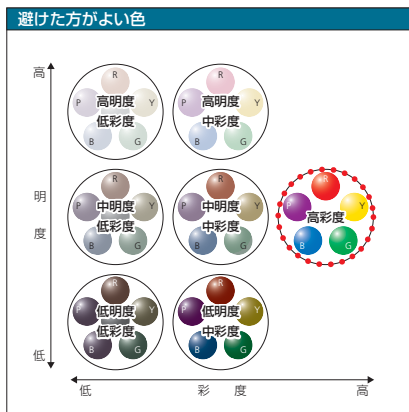


現況における商業・業務景観の色彩分布 [外壁基調色]

## 避けた方がよい色

商業・業務景観地域では、品格の中にも適度な変化を持つ都市景観を形成するため、けばけばしい印象の派手な色彩を外壁等の基調色とすることを避けてください。

### ●高彩度色



## おすすめの色

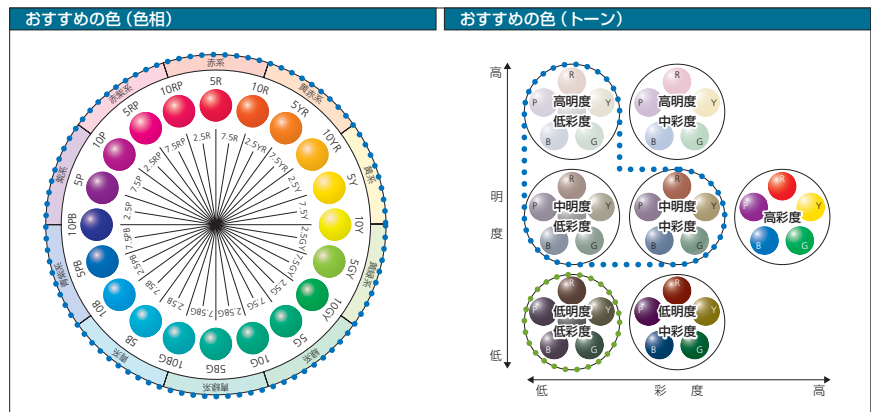
商業・業務景観地域では、暖色系を中心に、無彩色等を含む全色相を推薦します。ただし、暖色系以外の色相については、ごく低彩度（彩度1以下）の色彩とします。

### ●暖色系色相を中心とする全色相

商業・業務景観地域では、多くの人が集い往来する町の景観にふさわしい品格のある、高明度、中明度の低彩度色と親しみやすさのある中明度・中彩度色を推薦します。

屋根は低明度・低彩度色を推薦します。

- 高明度・低彩度色
- 中明度・低彩度色
- 中明度・中彩度色
- 低明度・低彩度色（屋根のみ）



青色の点線(●●)は、外壁基調色のおすすめの色を表し、黄緑色の点線(●●)は、屋根のおすすめの色を表しています。

### おすすめの色 (日本塗料工業会標準色見本帳より)

#### ●高明度・低彩度色

10R8.0/2.0 [09-80D]	7.5YR8.0/2.0 [17-80D]	10YR8.5/3.0 [19-85F]	2.5Y8.5/3.0 [22-80F]	5.0BG8.0/0.5 [55-80A]	N9.5 [N-95]
5.0YR8.5/1.0 [15-85B]	7.5YR7.0/2.0 [17-70D]	10YR8.0/3.0 [19-80F]	2.5Y8.0/1.5 [22-80C]	5.0PB8.0/0.5 [75-80A]	N9.0 [N-90]
5.0YR8.0/3.0 [15-80F]	10YR8.5/1.5 [19-85C]	2.5Y8.5/2.0 [22-85D]	2.5Y8.0/2.0 [22-80D]	5.0PB8.0/1.0 [75-80B]	N8.5 [N-85]

#### ●中明度・低彩度色

5.0YR7.0/2.0 [15-70D]	7.5YR7.0/2.0 [17-70D]	10YR7.0/3.0 [19-70F]	2.5Y7.5/2.0 [22-75D]	5.0BG7.0/1.0 [55-70B]	N7.5 [N-75]
5.0YR6.0/3.0 [15-60F]	10YR7.0/2.0 [19-70D]	10YR6.0/3.0 [19-60F]	2.5Y6.0/2.0 [22-60D]	5.0PB7.0/1.0 [75-70B]	N7.0 [N-70]

#### ●中明度・中彩度色

5.0YR7.0/4.0 [15-70H]	7.5YR7.0/4.0 [17-70H]	7.5YR6.0/4.0 [17-60H]	10YR7.5/6.0 [19-75L]	10YR6.0/4.0 [19-60H]	2.5Y7.0/4.0 [22-70H]
--------------------------	--------------------------	--------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------

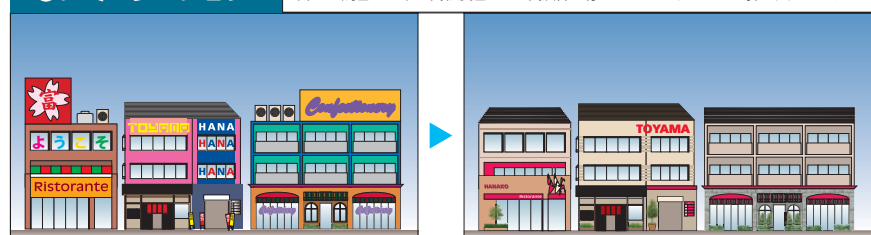
## 色彩景観のポイント

### ●テーマカラーで賑わいを

基調色に派手な色彩を用いなくても、往来する人の目につきやすい低層部に町並み共通のテーマカラーを用いるなど、アクセントとしての色彩を上手に使うと、けばけばしさのない雰囲気の良い町並みにできます。

### ●シミュレーション

外壁基調色には中・低彩度色とし、低層部に赤のアクセントカラーを採り入れました。



# 住宅地景観

戸建て住宅を主体に住居系施設が集積した住宅地の景観です。隣接する建築物等との連続性を考慮し、落ち着いたと安らぎのある景観づくりが求められる地域です。

## 現況の色彩



外壁 : 10YR9.0/0.5 屋根 : N2.0

アイボリーの外壁と黒い屋根のオーソドックスな配色—婦中町



外壁 : 1.0Y5.0/1.5 屋根 : N2.0

やや明るさを抑えたベージュ系の外壁—婦中町



外壁 : 10YR5.0/2.0 屋根 : N2.0

落ち着いた暖色系の配色—小杉町



外壁 : 3.5Y6.0/1.5 屋根 : N3.0

落ち着いた配色を基本に腰壁に木材を用いた住宅—小杉町



外壁 : 2.5Y7.0/5.7 屋根 : 10G6.0/4.0

彩度の高い黄色の外壁と緑色の屋根を採用した住宅

### ● 落ち着いたと安らぎを感じさせる オーソドックスな色彩

県内の住宅地では、ベージュやアイボリーなど明るく穏やかな色調の外壁と、黒や灰色、焦茶など、暗く落ち着いた屋根の配色が基本となっています。

こうした暖色系の低彩度色で構成される町並みは、永い時間を過ごす住宅地にふさわしい、暖かさや安らぎを感じさせるものとなっています。

### ● 町並みの連続性を乱す派手な色彩

ほとんどの住宅は、低彩度の落ち着いた配色を基本としていますが、一部に派手な黄色や緑などを基調とした住宅等もみられます。

落ち着いた住宅地の町並みの中では、このような色彩はいっそうけばけばしさを増してみえ、穏やかな色彩の連続性を遮断しています。

## 色彩景観づくりの方向性

### ● 外観は町並み全体の資産として考える

住宅は個人の資産ですが、その外観は好き嫌いにかかわらず、多くの人の目に触れるものです。

このため、外装色を選択する際は、今ある町並みの色彩を調べ、町並み全体の景観がより良くなるような色彩を考える必要があります。

新しい輸入住宅などの中には、派手な色彩を基調としたものもみられますが、輸入住宅であっても海外の様式をそのまま持ち込むのではなく、今ある景観を大切に、周囲に協調させていくことが大切です。

### ● 住宅等の慣例色を基本に考える

この地域では、暖色系の低彩度色が多用されており、落ち着いたと安らぎのある景観を形成しています。

これらの色彩は、全国的に多くの住宅に採用されている慣例色と呼ばれ、目新しさはないものの、住宅にふさわしい飽きのこない色彩といえます。

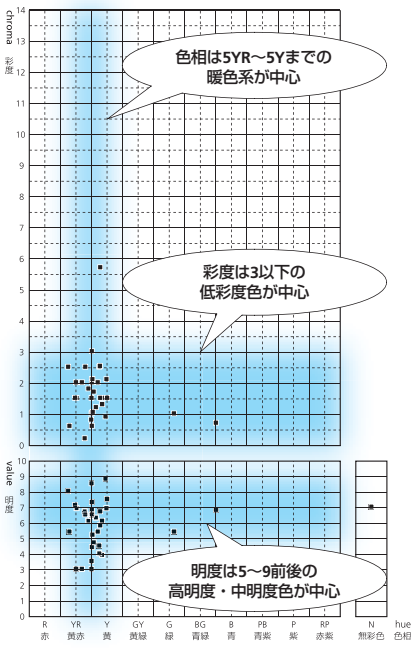
また、これらの色彩は、暮らしの中に季節感をもたらす庭木の緑を引き立たせる要素にもなっています。

このため、住宅地では暖色系の低彩度色を基本に考え、周囲の住宅と色相やトーンをそろえるなどして、町並みの連続性を創出していくことが重要です。

### ● 共同住宅等は威圧感を抑えて

共同住宅は規模が大きく、周囲に威圧感や閉鎖感を与えがちです。

共同住宅の色彩は、戸建て住宅と同じような穏やかな暖色を基本とし、色彩を分節化したり、高層部に明るめの色彩を用いて開放感を創出するなど、周囲に馴染むような工夫が必要です。

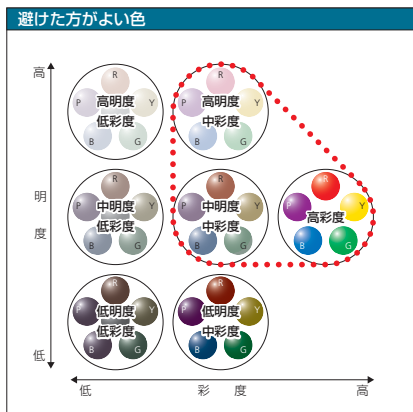


現況における住宅地景観の色彩分布 [外壁基調色]

## 避けた方がよい色

住宅地景観地域では、落ち着きと安らぎのある町並みを形成するため、以下に挙げる派手な色彩や色味の強い色彩を外壁等の基調色とすることは避けてください。

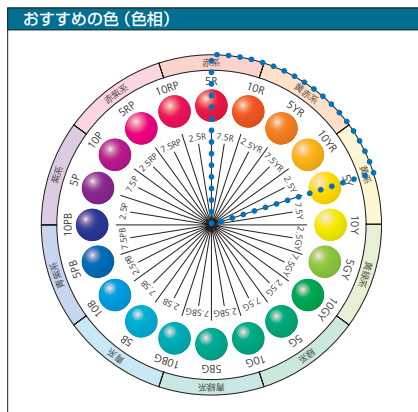
- 高彩度色
- 高明度・中彩度色
- 中明度・中彩度色



## おすすめの色

住宅地景観地域では、現況の基調とされており、住環境にふさわしい暖かみを感じさせる暖色系の色相を推薦します。

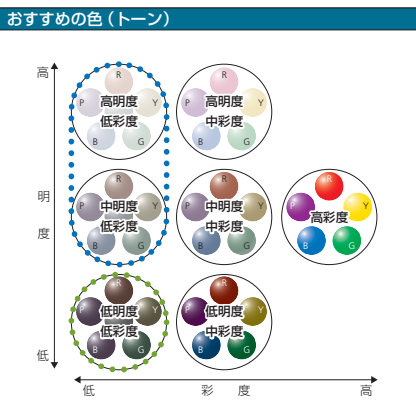
- 5R ~ 5Y の暖色系色相



住宅地景観地域では、明るく安らぎを感じさせ、庭木の緑などがよく映える高明度、中明度の低彩度色を推薦します。

屋根は低明度・低彩度色を推薦します。

- 高明度・低彩度色
- 中明度・低彩度色
- 低明度・低彩度色 (屋根のみ)



青色の点線(●●)は、外壁基調色のおすすめの色を表し、黄緑色の点線(●●)は、屋根のおすすめの色を表しています。

## おすすめの色 (日本塗料工業会標準色見本帳より)

●高明度・低彩度色					
10R8.0/2.0 [09-80D]	7.5YR8.0/2.0 [17-80D]	10YR8.5/1.5 [19-85C]	10YR8.0/3.0 [19-80F]	2.5Y8.0/1.0 [22-80B]	5.0Y9.0/0.5 [25-95A]
5.0YR8.5/1.0 [15-85B]	10YR9.0/0.5 [19-90A]	10YR8.0/1.0 [19-80B]	2.5Y8.5/1.0 [22-85B]	2.5Y8.0/1.5 [22-80C]	N9.0 [N-90]
5.0YR8.0/1.0 [15-80B]	10YR9.0/1.5 [19-90C]	10YR8.0/1.5 [19-80C]	2.5Y8.5/2.0 [22-85D]	2.5Y8.0/2.0 [22-80D]	N8.5 [N-85]
●中明度・低彩度色					
10R7.0/2.0 [09-70D]	5.0YR6.0/2.0 [15-60D]	10YR7.0/1.0 [19-70B]	10YR6.0/3.0 [19-60F]	2.5Y7.0/2.0 [22-70D]	5.0Y7.0/1.5 [22-70C]
2.5YR7.0/2.0 [12-70D]	7.5YR7.0/2.0 [17-70D]	10YR7.0/2.0 [19-70D]	2.5Y7.5/1.0 [22-75B]	2.5Y6.0/2.0 [22-60D]	N7.5 [N-75]
5.0YR7.0/2.0 [15-70D]	10YR7.5/1.0 [19-75B]	10YR7.0/3.0 [19-70F]	2.5Y7.5/2.0 [22-75D]	5.0Y7.5/1.0 [25-75B]	N7.0 [N-70]

## 色彩景観のポイント

**●好きな色は  
インテリアやガーデニングで楽しもう**  
住宅は、人生最大の買い物といわれ、誰でも自分の好きな色彩やデザインを選択したいと思うものです。

しかし、ようやく手に入れた自分好みの住宅も、周囲の人にとって好ましいものであるかどうかはわかりません。

特に派手な色彩は、人によって好みが変わるものです。隣人が選べないように、隣の家の色も選択することはできません。

このため、住宅の外装色は多くの住宅に採用されているアイボリーやベージュ、ウォームグレーなどの慣例色が基本といえます。

好みの色彩がある場合は、外壁や屋根など周囲からよく目立ち、変更しにくい場所ではなく、カーテンや家具などのインテリアや、庭に植える草木の花の色など、より身近で可変性のある場所に採り入れると、好きな色に囲まれた彩り豊かな暮らしを楽しむことができます。



# 産業施設景観

工場や倉庫などが集積し、製造や物流の拠点となっている地域の景観です。大きなスケールの人工物が多数立地することから、明るく親しみやすい景観が求められる地域です。

## 現況の色彩



外壁 : 2.5Y8.0/1.0      ライン : 10B5.0/6.0

ストライプやシャッターなどにアクセント色を使った建築物—新湊市



外壁 : 7.5YR8.0/2.0      ライン : 10B4.0/8.0

ブルーのアクセントカラーを採用した煙突—新湊市



外壁 : 5.0Y7.0/0.5      屋根 : 5.0B4.0/4.0

中小規模の工場等に多くみられるグレーの壁と青い屋根—富山市



外壁 : 10GY8.0/2.0

やや緑みを帯びた低彩度色の外装を採用した建築物—新湊市



外壁 : 2.5Y5.0/2.5      屋根 : 2.5Y6.0/1.0

スレートの汚れが進んだ建築物

### ●明るく穏やかな色彩が基調 となっている現況の産業施設

富山湾に面する港湾周辺や、都市近郊部には工業団地や物流団地などの産業施設が立地しています。

これらの建築物等は、どちらかというところ経済性を重視した単調な外観のものが増えていますが、全体としては、明るく穏やかな色調が基本となっており、清潔感のある外観が形成されています。

### ●近寄りやすい雰囲気のある汚れた施設

一部の施設では、建築物等のメンテナンスに問題があり、汚損した施設が外部から目立っている例もみられます。

これらの施設は、産業施設周辺の景観を閉鎖感のある近寄りやすいものにしていきます。

## 色彩景観づくりの方向性

### ●明るく近寄りやすい外観に

この地域では、全般に明るく開放感のある色彩が多用されています。

従来、工場地や港湾などは一部の利用者のみが出入りする環境でしたが、近年においては、これらの地域に一般の県民が利用する施設が整備されるなど、より多くの人が入り込む地域へと変わりつつあります。

このため、威圧感や閉鎖感を与えないよう、現況の明るい色彩を生かしていくことが大切です。

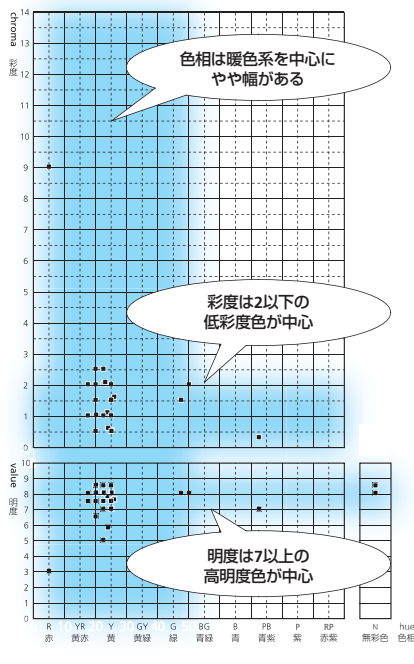
### ●色彩を効果的に活用して

産業施設の整備においては経済性が重視され、材料や形態などは大きな制約を受けます。一方、色彩の変更は比較的容易で経済的負担も少なく済みます。このため、産業施設等においては、より積極的に色彩を活用し、ダイナミックで活力ある景観を創り出していくことが大切です。

### ●メンテナンスと併せて色彩の再検討を

建築物等の美観を維持し、威圧感を軽減するために、汚れた施設のメンテナンス等が重要になります。

また、メンテナンスに併せて、事業所全体の建築物等の色彩デザインを見直し、明るく統一感のある産業施設づくりを進めていくことも重要です。



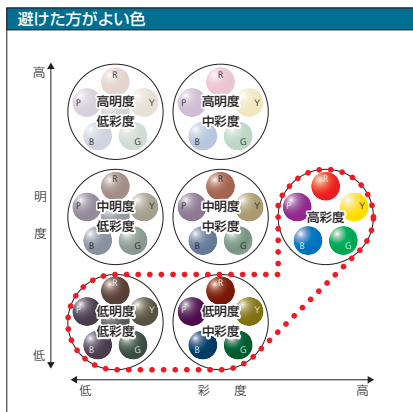
現況における産業施設景観の色彩分布 [外壁基調色]



## 避けた方がよい色

産業施設景観地域では、威圧感や閉鎖感を軽減し、明るく親しみやすい景観とするために、以下に挙げる、鮮やかな色彩や暗い色彩を外壁等の基調色とすることを避けてください。

- 高彩度色
- 低明度・中彩度色
- 低明度・低彩度色



## おすすめの色

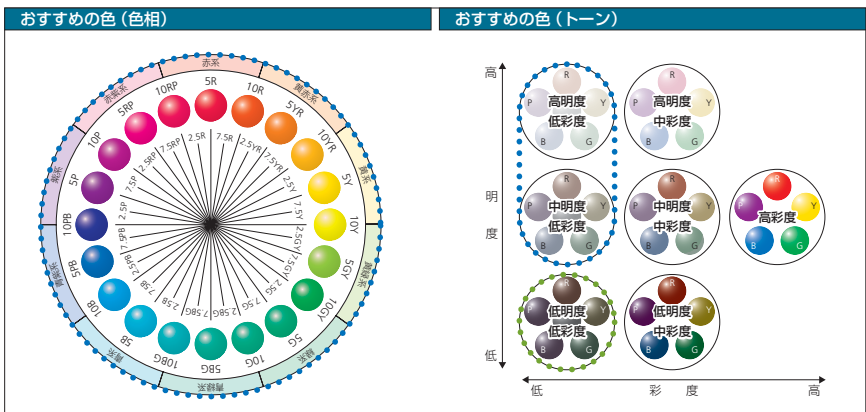
産業施設景観地域では、暖色系を中心に、無彩色等を含む全色相を推奨します。ただし、暖色系以外の色相については、ごく低彩度（彩度1以下）の色彩とします。

- 暖色系色相を中心とする全色相

産業施設景観地域では、現況において多用されている明るい色彩を生かし、さらに明るく開放感のある景観を形成していくため、高・中明度の低彩度色を推奨します。

屋根は低明度・低彩度色を推奨します。

- 高明度・低彩度色
- 中明度・低彩度色
- 低明度・低彩度色（屋根のみ）



青色の点線(●●)は、外壁基調色のおすすめの色を表し、黄緑色の点線(●●)は、屋根のおすすめの色を表しています。

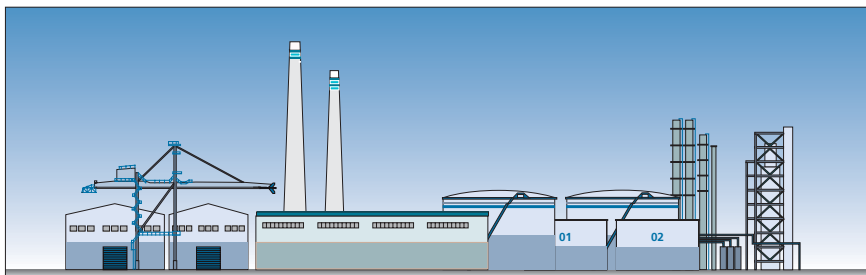
## おすすめの色 (日本塗料工業会標準色見本帳より)

●高明度・低彩度色					
10YR9.0/0.5 [19-90A]	2.5Y9.0/1.0 [22-90B]	5.0Y9.0/0.5 [25-95A]	5.0Y8.0/1.0 [25-80B]	5.0B8.0/0.5 [65-80A]	N9.0 [N-90]
10YR8.5/1.5 [19-85C]	2.5Y8.5/1.0 [22-85B]	5.0Y9.0/1.0 [25-90B]	5.0G9.0/0.5 [45-90A]	5.0PB9.0/0.5 [75-90A]	N8.5 [N-85]
10YR8.0/1.0 [19-80B]	2.5Y8.0/1.0 [22-80B]	5.0Y8.5/1.0 [25-85B]	5.0B9.0/0.5 [65-90A]	5.0PB8.0/0.5 [75-80A]	N8.0 [N-80]
●中明度・低彩度色					
7.5YR7.0/2.0 [17-70D]	10YR7.0/1.0 [19-70B]	2.5Y7.5/1.5 [22-75C]	5.0Y7.5/1.5 [22-75C]	5.0G7.0/1.0 [45-70B]	5.0PB7.0/1.0 [75-70B]
10YR7.5/1.0 [19-75B]	10YR7.0/1.5 [19-70C]	2.5Y7.0/1.0 [22-70B]	5.0Y7.0/0.5 [22-70A]	5.0BG7.0/1.0 [55-70B]	N7.5 [N-75]
10YR7.5/1.5 [19-75C]	2.5Y7.5/1.0 [22-75B]	5.0Y7.5/1.0 [25-75B]	5.0Y7.0/1.5 [22-70C]	5.0B7.0/1.0 [65-70B]	N7.0 [N-70]

## 色彩景観のポイント

- 色彩を上手に使うことで威圧感を和らげよう

産業施設は、単色の長大な壁面ではなく、建築物等の形を考慮しながら色分けをしたり、ストライプ模様など普遍性のある塗り分けを採用すると、親しみやすい外観になります。また、事業所ごとや団地ごとに色相をそろえ、まとまりのある景観になります。



事業所全体をブルー系からグリーン系の色相でまとめ、部位ごとに様々なトーンを使い分けたい例

# 歴史的町並み景観

宿場町や門前町など、伝統的様式の建築物などが多数残っている歴史的町並みの景観です。木材や和瓦など、伝統的な建築材料の穏やかな色彩を生かした景観づくりが求められる地域です。

## 現況の色彩



外壁 :N9.5 屋根 :N3.0

白い漆喰壁と木材による明暗のはっきりとした配色—八尾町



外壁 :2.5Y9.2/0.2 屋根 :N3.0

周囲の町並みにあわせて和風の意匠を採用した塀—八尾町



外壁 :10YR3.0/2.0 屋根 :5YR2.0/0.5

経年変化によって灰褐色に風格を増した格子や柱—高岡市



外壁 :N2 屋根 :10YR3.0/1.0

黒い壁がどっしりとした風格を感じさせる土蔵造りの建築物—高岡市



外壁 :10YR3.0/1.0 屋根 :N2.0

全体が無彩色・低彩度色で構成された建築物—富山市

## ●漆喰、木材、和瓦で構成されるモノトーンの景観

八尾町や井波町をはじめ、県内には各地に門前町や宿場町などの歴史的町並みが残されています。

これらの建築物等には、それぞれ個性がありますが、色彩には共通性がみられ、漆喰の白や木材の灰褐色、瓦屋根の黒を基本とした、明暗の対比がはっきりとしたモノトーンの配色が凜とした佇まいを見せています。

## ●多くの人の協力で成り立つ連続性のある景観

歴史的町並みでは、住民等の協力によって、連続性のある色彩景観が保たれており、新しい施設でも周囲にあわせて和風の外観を採用するなど、歴史的資産を継承する取り組みが進んでいます。

## 色彩景観づくりの方向性

### ●表面的な彩色ではなく素材色を生かす

この地域では、色彩よりもむしろ素材の統一性がまとまりのある景観を創り出しているといえます。

このため、景観づくりにあたっては、漆喰や木材、和瓦などできるだけ町並みの中にみられる伝統的な建材を尊重し、表面的なお化粧で取り繕うよりも、年月とともに風格を増す町並みを継承していくことが大切といえます。

やむを得ず、新しい建材を用いる際には、伝統的な建材と似た色彩を選択することはもとより、その材質感やつやなどにも配慮し、町並みの連続性を維持していくことが大切です。

また、外壁面を単色で仕上げるのではなく、腰壁や格子などに木材を積極的に用い、明るい外壁と風格のある木材の素材色の対比による陰影豊かな外観を継承していくことも必要です。

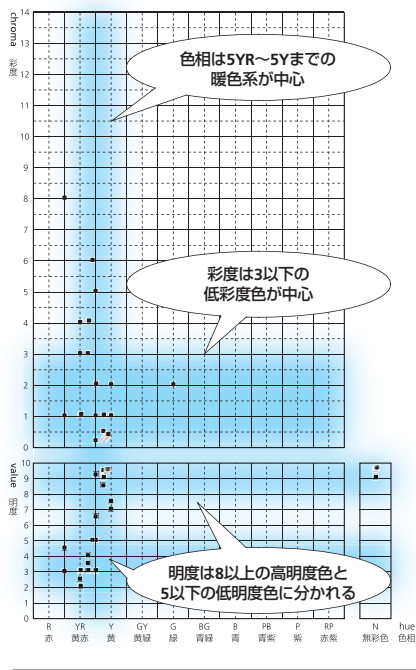
### ●自然の斑や経年変化を大切にす

色調にわずかな斑がある和瓦のように、歴史的な建築材料にはどれも自然な斑がみられます。

また、木材等は経年変化によって歴史を感じさせる重厚感のある色彩へと変化していきます。

こうした斑や経年変化は、手作りの産業技術や時間の経過がつくり出したもので、工業が発達した現代においてはむしろ作り出すことが困難な自然な表情をもっています。

建築物等の改修時などには、新しい材料で全体を作り替えてしまうのではなく、自然の表情をもった材料を再活用し、手作りの景観を継承していくことを検討することも考えられます。

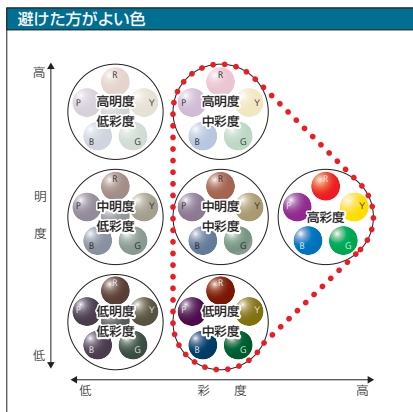


現況における歴史的町並み景観の色彩分布 [外壁基調色]

## 避けた方がよい色

歴史的町並み景観地域では、風格のある町並みを継承していくために、以下に挙げる色味の強い色彩を外壁等の基調色とすることは避けてください。

- 高彩度色
- 高明度・中彩度色
- 中明度・中彩度色
- 低明度・中彩度色



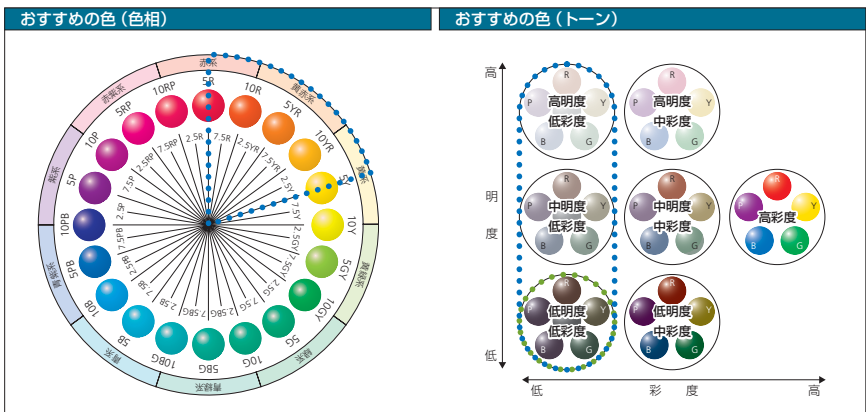
## おすすめの色

歴史的町並み景観地域では、現況において用いられている漆喰や木材、和瓦などの色彩を尊重して、暖色系の色彩及び無彩色を推薦します。

- 5R～5Yの暖色系色相  
(無彩色を含む)

歴史的町並み景観地域では、明暗の対比がついたモノトーンの配色が特徴となっていることから、高明度、中明度、低明度の低彩度色を推薦します。

- 高明度・低彩度色
- 中明度・低彩度色
- 低明度・低彩度色(屋根及び外壁)



青色の点線(●●)は、外壁基調色のおすすめの色を表し、黄緑色の点線(●●)は、屋根のおすすめの色を表しています。

## おすすめの色(日本塗料工業会標準色見本帳より)

### ●高明度・低彩度色

10YR9.0/0.5 [19-90A]	10YR8.0/1.0 [19-80B]	2.5Y8.5/1.0 [22-85B]	5.0Y9.0/0.5 [25-95A]	5.0Y8.5/1.0 [25-85B]	N9.5 [N-95]
10YR8.5/0.5 [19-85A]	2.5Y9.0/1.0 [22-90B]	2.5Y8.0/1.0 [22-80B]	5.0Y9.0/1.0 [25-90B]	5.0Y8.0/1.0 [25-80B]	N9.0 [N-90]

### ●中明度・低彩度色

5.0YR6.0/2.0 [15-60D]	7.5YR5.0/3.0 [17-50F]	10YR7.0/2.0 [19-70D]	10YR6.0/3.0 [19-60F]	2.5Y7.0/2.0 [22-70D]	2.5Y5.0/2.0 [25-50D]
5.0YR6.0/3.0 [15-60F]	10YR7.5/1.0 [19-75B]	10YR7.0/3.0 [19-70F]	2.5Y7.5/1.0 [22-75B]	2.5Y6.0/1.5 [22-60C]	2.5Y5.0/3.0 [25-50F]
7.5YR7.0/2.0 [17-70D]	10YR7.0/1.0 [19-70B]	10YR6.0/1.0 [19-60B]	2.5Y7.5/2.0 [22-75D]	2.5Y6.0/2.0 [22-60D]	5.0Y7.0/1.5 [22-70C]

### ●低明度・低彩度色

5YR4.0/2.0 [15-40D]	5YR3.0/1.0 [15-30B]	5YR3.0/3.0 [15-30F]	10YR4.0/2.0 [19-40D]	2.5Y4.0/2.0 [22-40D]	2.5Y3.0/2.0 [22-30D]
------------------------	------------------------	------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------

## 色彩景観のポイント

### ●地域の産業を生かそう

歴史的町並みでは、町並みの成立要因となっているような、地域独自の産業を景観づくりにも生かしていくことが大切です。こうしたことによって、より个性的で深みのある景観を創り出すことができます。



木彫を生かした広告物—井波町八日町地区



鋳物を生かしたグレーチング—高岡市金屋町地区

## 07

## 公共事業の色彩



## 07-1

## 基本的考え方

## ●景観づくりにおける公共事業の役割

町並み空間は、大きく公共空間と私的空間に分けることができます。

しかし、目に入る景観には境界はありません。景観づくりにあたっては、公共空間を整備、管理する行政と、私的空間を整備、管理する県民が協力してこれに取り組む必要があります。

とりわけ、公共空間は県民はもとより多くの来訪者の目に触れるものであることから、地域の景観づくりを進める上できわめて重要な役割を担っているということが出来ます。

## ●公共事業における配慮

公共事業を実施する際には、既存の景観との調和を図りながら、現存する歴史資源や自然資源を生かしたり、地域の新しい顔となるような質の高いデザインを導入するなど、周辺の民間事業における景観づくりを牽引するようなものとなるよう配慮することが必要です。

また、地域で行われている他の公共事業との景観づくりを進めるうえでの整合を図ることが重要です。

## ●公共事業の色彩設計にあたって

公共事業は、建築物や橋梁のように永い時間同じ場所に存在し続けるものや、道路のように継続的に整備・改修が続くものなど、地域の基盤となるものを整備、管理するものであり、これらの色彩は、時間的にも空間的にも、景観に大きな影響を及ぼします。

公共事業の実施にあたっては、時間的要素や空間的要素など幅広い視野に立って検討を行い、慎重な色彩設計を行うことが重要です。

●視点	●考慮すべき事項
一貫性のある色彩設計	一過性の流行にとらわれず、普遍性のある色彩の選択を基本とする。 個別対象ばかりに目を向けず、全体を見据えて色彩を検討する。 色彩選定の根拠を明らかにし、継続事業等ではそれを継承する。
公共性のある色彩設計	地域の景観を把握し、景観の充実には寄与するよう工夫する。 担当者の主観に偏重せず、組織としての運用体制を整える。 地域のシンボルとなるものについて、住民の意見を適切に設計等に反映させる。
総合性のある色彩設計	景観の中で目立たせるものと馴染ませるものの序列を考える。 一体的空間を構成する色彩がちぐはぐにならないよう事業間で調整する。 行政内部の連携、他の行政機関や県民との連携を図る。



## 07-2

### 公共事業の色彩計画の流れ

#### ●プロセスの重要性

公共事業の色彩設計にあたっては、[一貫性] [公共性] [総合性] を考慮する必要があります。

それは、色彩設計の成果ばかりでなく、検討途上のプロセスがとても重要であることを意味しています。

#### ●担当者の好みから

##### 客観性のあるプロセスへの発展を

従来、公共事業に関わる色彩は、少数の関係者の主観によって決定されてきた部分もありますが、チャートに示したようなプロセスを経ることにより、公共事業にふさわしい客観性のある色彩設計を行うことができます。

なおここに示すプロセスは、一般的な公共事業の色彩計画の流れを例示したものであり、すべての事業がこのようなプロセスを要求されるわけではありません。また、場合によってはこのプロセスにはない設計過程が要求されることもあります。

	●プロセス	●内容・配慮事項など	●必要な資料・道具など
調査	1 色彩ガイドラインの把握	設計対象が属する景観類型の色彩指針を把握します。	色彩ガイドライン 公共事業の景観づくり指針解説書 など
	2 周辺の現況色彩の把握	色見本帳などを使って周辺の町並みや自然の景観要素などの色彩を調べます。同時に周辺の景観の中で重要と思われるものの色彩や位置関係を調べます。	色票集（日本塗料工業会標準色見本帳など） カメラ など
	3 周辺住民等の意向の把握	設計対象の色彩について、地域住民による景観づくり活動や近隣住民等の意向がある場合はそれを把握します。	対象の構想書・計画書 など
計画	4 色彩の方向性の検討	設計対象がその地域の景観づくりに関してどのような役割を担うべきかを明確にし、既存の景観との調和を考慮しながら、全体の色彩イメージを検討します。	色彩ガイドライン 対象の構想書・計画書 など
	5 各種見本の入手	仕上げ表などに沿って各部の建材見本、色見本等を取り寄せます。	対象の設計一般図 仕上げ表 など
設計	6 各部の色彩の選択	色彩指針に沿って各部の色彩をリストアップします。建材の種類によっては色彩の特注が可能なものもあります。	対象の設計一般図 仕上げ表 各部の建材見本 色見本 など
	7 配色案の作成	リストアップした色彩を組み合わせた配色案を作成します。着彩立面図やカラーパースなどを作成すると具体的な状況を把握しやすくなります。	着彩立面図 着彩平面図 着彩透視図 など
	8 ガイドラインとの整合性の確認	色彩設計の内容と色彩指針との整合性を確認します。	色彩ガイドライン
	9 関係者・近隣住民等との合意形成	必要に応じ、色彩設計の内容について関係者や近隣住民の合意を得ます。地域のランドマークとなるような建築物等は、積極的に色彩指針の範囲外の色彩を使うことも考えられますが、特にそのような場合は、住民の合意を得ることが必要です。	色彩ガイドライン 着彩立面図 着彩平面図 着彩透視図 など
	10 色彩設計図書の作成	確定した色彩設計案に沿って、平面図や立面図、仕上げ表などに色彩を記入し、色彩設計図書を作成します。	対象の設計一般図 仕上げ表 色彩設計図書 など
監理	11 色彩設計監理	設計図書の色彩が施工に反映されているかチェックします。 必要に応じて追加や修正を行います。	色彩設計図書 施工図 など
維持管理	12 維持管理	完成後は、美観が保たれるよう、その維持、管理につとめます。 周囲の景観の変化に対応して、色彩を再検討することも考えられます。	維持管理計画書 など

## 07-3

## 水辺の土木構造物の色彩

## ●周囲を緑に囲まれた山間部の土木構造物

黒部川や庄川をはじめ、県内の河川の多くは急峻な山地を流れています。

このような景観の中で、周囲を深い緑で囲まれた土木構造物は、豊かな自然の色彩と調和を図る必要があります。

現況では、鮮やかな色彩が選択されている例もみられ、特に鋼橋の多くは高彩度色で塗装されています。

周辺に対するランドマークとしての機能が期待される土木構造物は、周囲との対比を強調するために、高彩度色を用いることも考えられますが、通常は、むしろ周囲の緑の鮮やかさが際立つように、鮮やかさや明るさを抑えた、落ち着いた色彩を基本に考えるべきだといえます。

## ●周囲が開けた平野部の土木構造物

周囲が開けた景観の中では、田園や河川周辺の自然景観はもとより、周囲の町並みなどの都市景観とも調和を図る必要があります。

大規模な土木構造物の整備には、大きな費用と時間が必要であり、そのため、とかく主張の強い色彩を選択しがちです。大規模な土木構造物は、好き嫌いに関わらず、多くの人の目に触れ周囲の景観の印象をも左右するものです。

派手な色彩や暗い色彩など、好みの分かれる表現ではなく、開放的な河川景観や都市景観に無理なく調和する明るく穏やかな色彩が基本といえます。

## ●中小規模の土木構造物

中小規模の土木構造物は、特別の象徴性を持たせる場合を除いて、できるだけ周囲の景観にとけ込むような色彩とすることが基本です。



落ち着いた色彩のアーチ橋——上平村



コンクリートの素材色を生かしたアーチ橋——立山町



河原の石の色と同化する桁橋——利賀村

## ●シミュレーション

同じ黄系の色相でも明度・彩度を下げると周囲の緑が引き立つようになります。



## ●シミュレーション

奇抜な色彩や陳腐なイラスト表現などを避け、落ち着いた色彩や素材色を生かしました。



## 07-4

## 道と広場の素材の色彩

## ●舗装道路も元々は土の道

道路や広場は生活に欠かすことのできない基盤であり、どこにいても必ず目に入る重要な景観要素です。

かつては地域の土を固めた舗装により周囲の自然景観との調和が保たれていましたが、土の道に石畳が敷かれ、アスファルト舗装に替わり、近年では多様なカラー舗装も多く用いられています。

このような素材の多様化が景観に混乱をもたらす原因にもなっています。



青と黄色の奇抜な配色と図案的要素の強いパターンを採用した舗装



石材の素材色を生かした舗装——砺波市



地域の土色に似た舗装材を用いた広場——富山市

## ●景観の背景としての道路

道路や広場は長い時間同じ場所にあり続けるものであり、景観の中で非常に大きな面積を占めるものです。

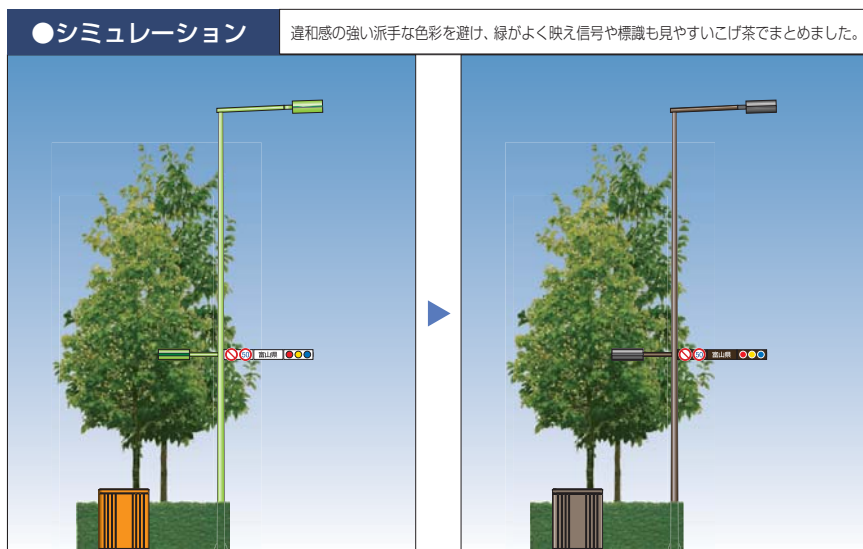
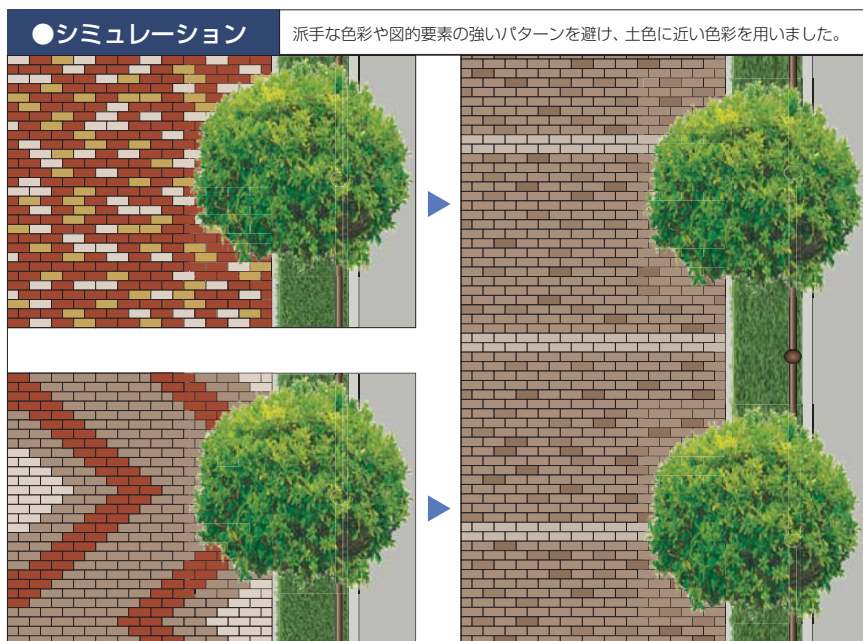
路面のような要素は景観の中では背景として扱うべきであり、必要以上に派手な色彩や対比の強い色彩を組み合わせた配色、絵画のような舗装パターンは、景観の秩序を整える意味からも、またメンテナンスの面からも避けるべきだといえます。

## ●道を通る人や車が引き立つ環境を

道路のカラー化を図る際は、地域の土の色を参考にするなど、景観の中にとけ込むような色彩を選択することが大切です。

また、ストリートファニチュアなどの道路占有物も、こげ茶やダークグリーン、ダークグレー等の低彩度色を基本に選択し、各要素の色彩がちぐはぐにならないよう、色相をそろえて全体をコーディネートするとよいでしょう。

こうした、背景としての景観づくりに徹することで、自然や町並みとともに人や車が引き立つ生き生きとした景観を創出することができます。



## 08

色彩景観の  
拠点づくりに向けて

## 08-1

## 地域の特徴をいかすために

## ●よりきめの細かい色彩景観づくりのために

このガイドラインでは、全県域を対象に建築物等に対する大まかな色彩指針を示しました。

一方、地域固有の色彩景観を守り、育んでいくためには、このガイドラインよりも一歩進んだ、より決めの細かい検討や調整が必要になります。

今後は、特徴的な色彩景観を有している地域や、新たに大規模な開発を行う地区などを中心に、地区計画や建築協定など既存の法制度の活用や、住民による主体的なまちづくりの一環としての色彩景観づくりなど、色彩景観のモデルとなるような積極的な取り組みが期待されるところです。

この項目では、ガイドライン策定のための調査を通して、特徴的な色彩景観が確認され、今後、色彩景観のモデルとして、これまでの取り組みを継続し、さらに洗練させていくことが期待される地域を紹介します。

## 08-2

ふるさと富山を  
想起させる色彩景観

## ●城端町西上地区等

道路の拡幅に伴う市街地の再整備にあたって、地域の伝統的な建築様式や材料を生かし、既存の町並みと調和した風情ある景観が再生されています。



## ●八尾町諏訪町地区

既存の伝統的町並みの保存、再生を住民の暗黙の了解事項とし、おわら風の盆の舞台として全国に知られる美しい町並みの景観づくりが進んでいます。



## 08-3

あたらしい富山を  
予感させる色彩景観

## ●富山市富山駅北地区(とやま都市MIRAI地区)

地区計画により、建築物の形態、意匠、色彩等のほか、屋外広告物の掲出方法などの誘導が行われ、都心にふさわしい整った町並みが整備されています。



## ●婦中町螢川ニュータウン

建築協定と緑地協定により、建築物の形態や色彩をそろえ、敷地内の緑化が図られ、うるおいのある緑豊かな住宅団地が形成されています。

